

# 上島町の地域づくりのシナリオ

移住者参加型の新しい地域づくりに向けて



上島町企画情報課政策推進室 檜垣明宏

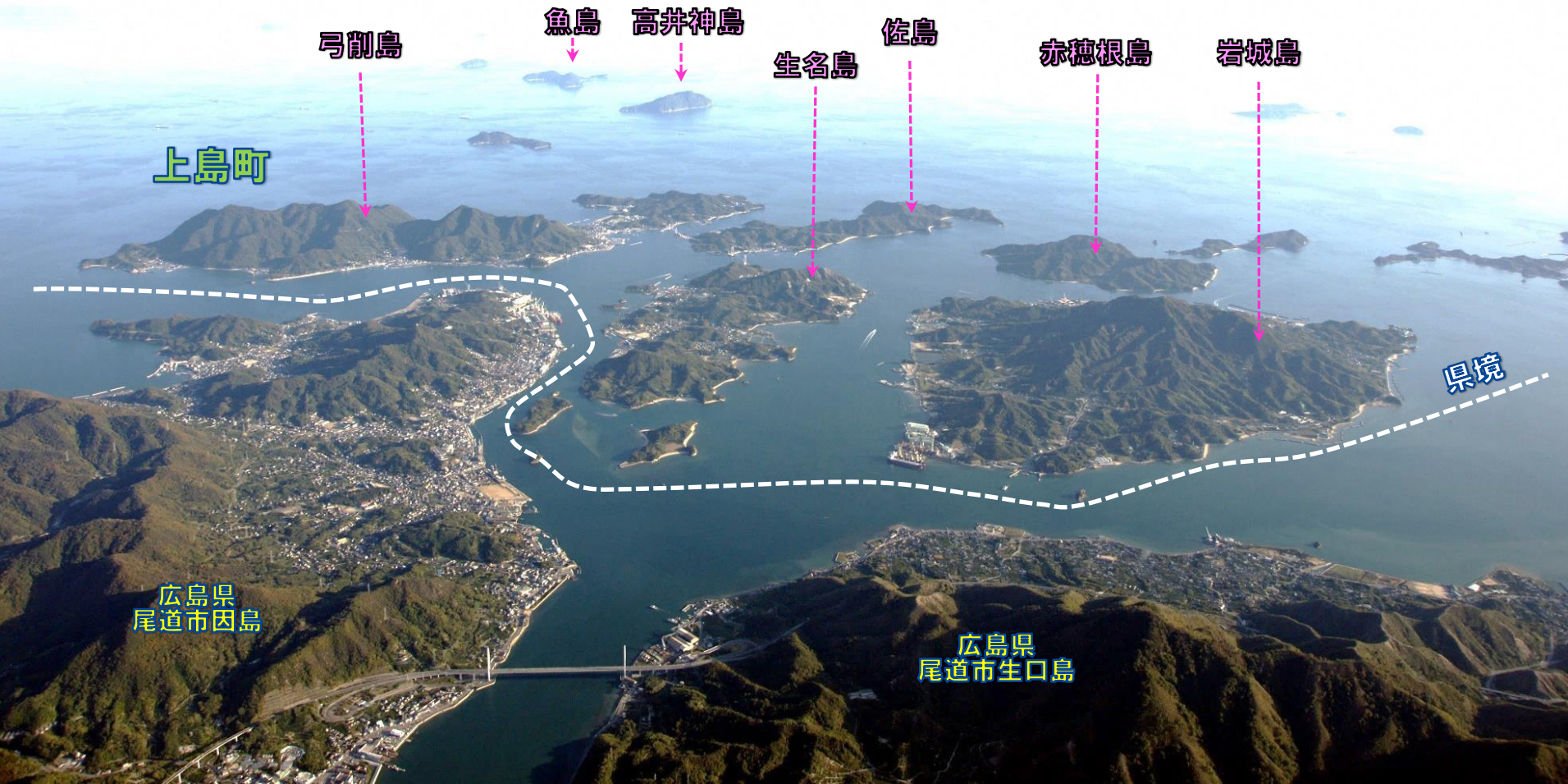
2019(令和元)年.11月

# 上島町の概要

平成16(2004)年10月1日、弓削町、生名村、岩城村、魚島村の離島からなる4町村が合併し誕生しました。

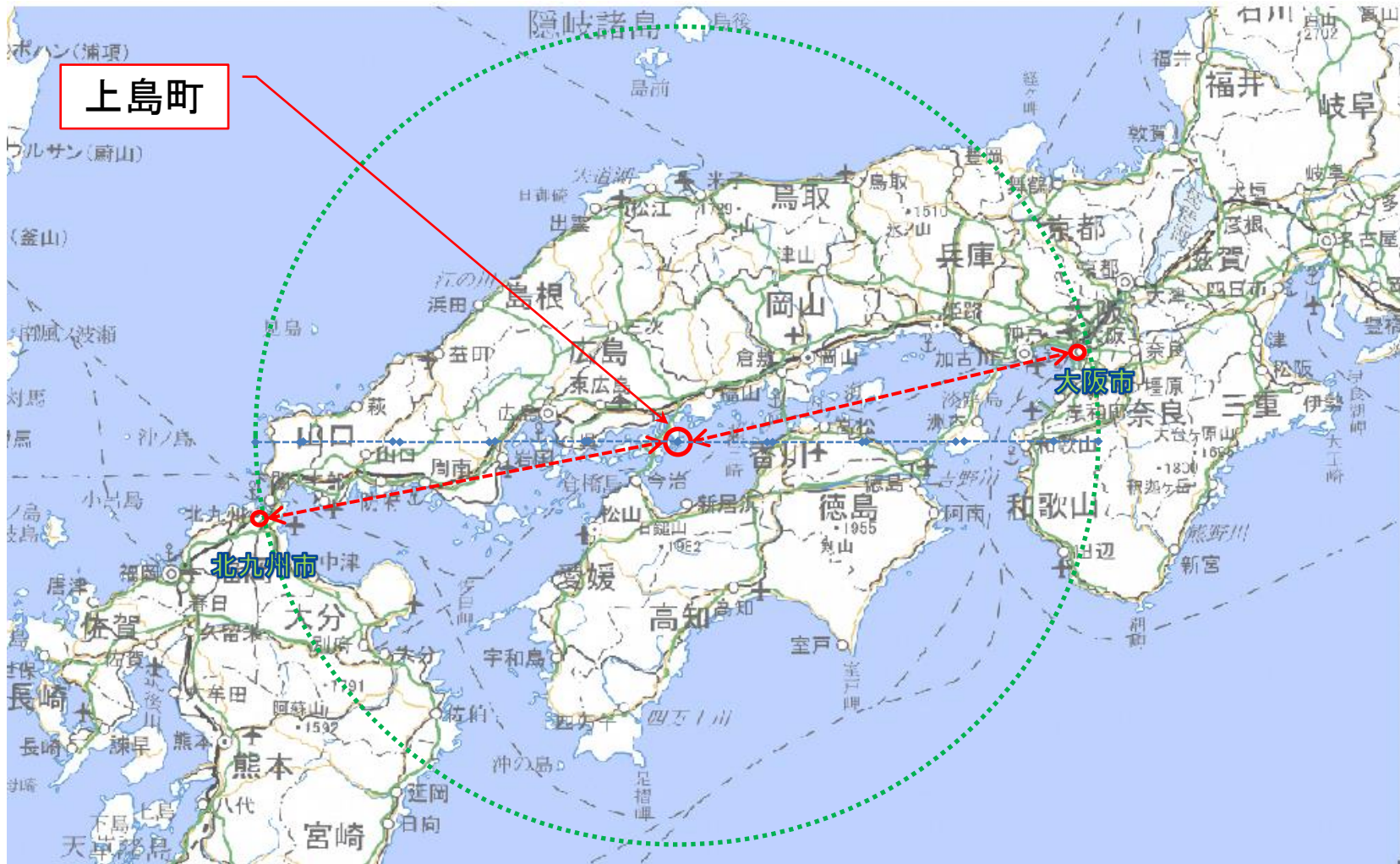
交通機関は海上交通のみで、海を隔てて広島県尾道市に接しており、本町生名島と尾道市因島との距離はわずか300mほどであり、生活圈としては主に尾道市因島側に属しています。

年間を通じて晴天が多く、降雨量が少ない瀬戸内海特有の安定した気候で、温暖な気候と傾斜地を生かしたレモン等の柑橘栽培を中心とした農業、定置網や刺網等、多様な小規模漁業のほかに、海苔や鯛・平目・車エビの養殖などを中心とした漁業、及び造船を中心とした製造業が本町の基幹産業です。



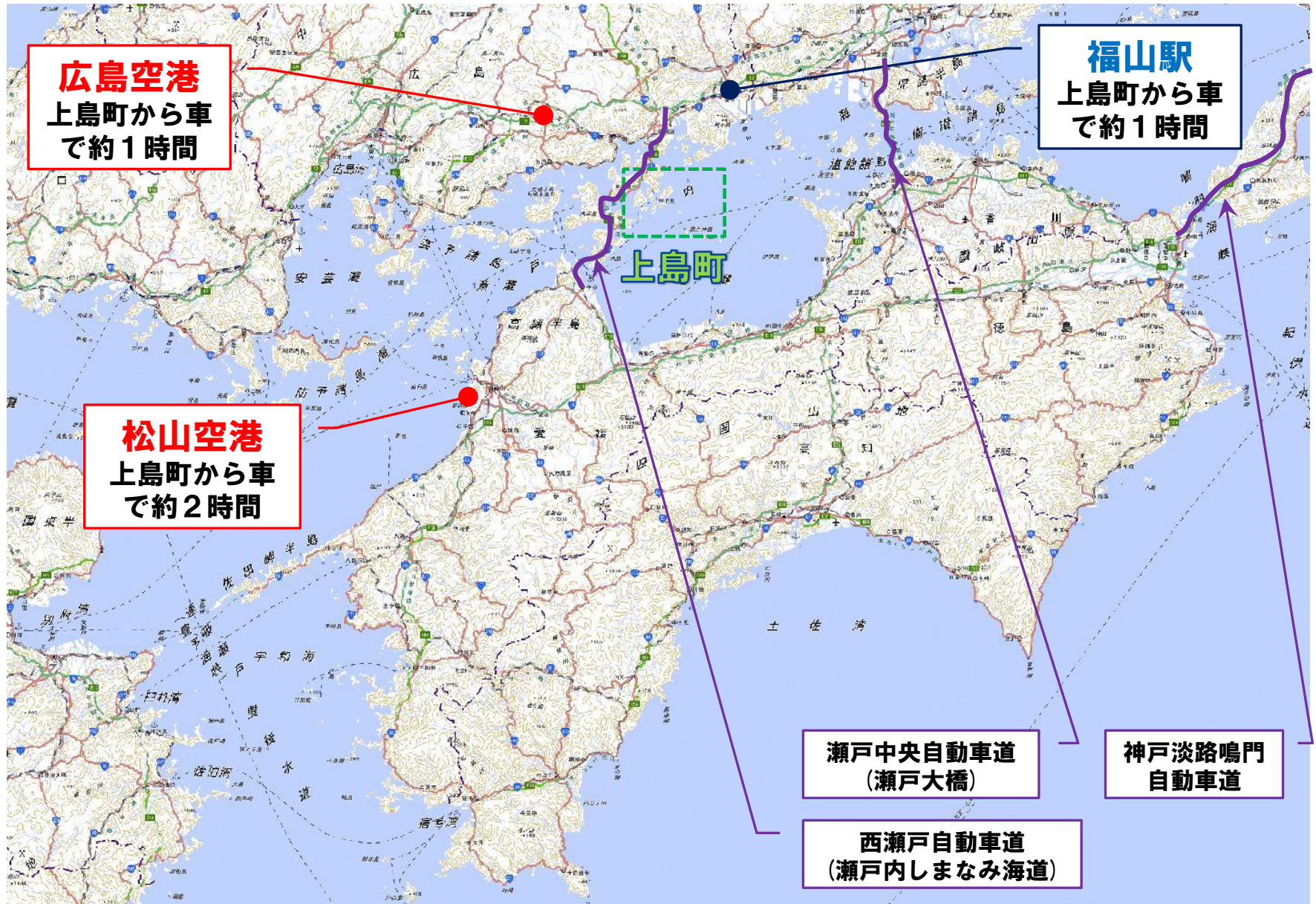


上島町は、東西約450kmにおよぶ瀬戸内海（瀬戸内海国立公園）のほぼ中央に位置し、愛媛県北東部、広島県境に浮かぶ“7つの有人島”と“18の無人島”の25の島からなる“離島の町”です。





上島町は、広島県境に位置することから、飛行機・新幹線を利用する場合、広島県側の広島空港・福山駅等を利用する方が便利です。





# 上島町 (R1.9.30現在)

- 人口：6,812人  
(うち外国人307人)
- 世帯数：3,979世帯  
(うち外国人300世帯)  
※住民基本台帳による

- 面積：30.38km<sup>2</sup>
- 水洗化率：100%
- 光情報網整備率：100%
- 信号機・トンネル：0個

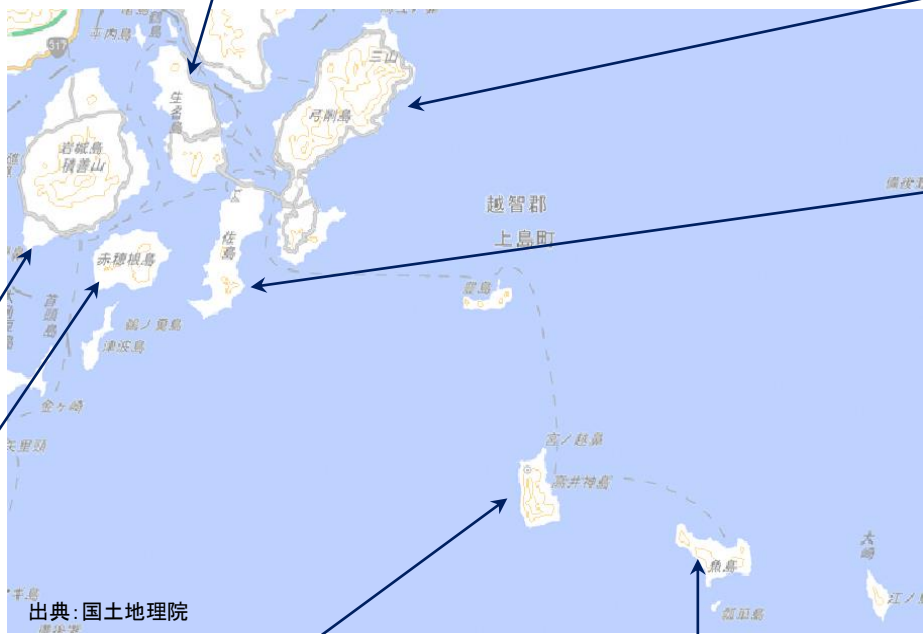
### 【主な登録・認定】

- 「日本で最も美しい村」連合
- しまの宝百景(国土交通省)
- 快水浴場百選(環境省)



## ■生名地区(旧生名村)

- 有人島：生名島
- 人口：1,507人(うち外16)
- 世帯数：842世帯(うち外15)
- 主な産業：造船関連事業従事



## ■岩城地区(旧岩城村)

- 有人島：岩城島・赤穂根島
- 人口：2,029人(うち外262)  
(岩城2,027人、赤穂根2人)
- 世帯数：1,149世帯(うち外259)  
(岩城1,148、赤穂根1)
- 主な産業：造船関連事業  
農業(レモン等柑橘)



## ■弓削地区(旧弓削町)

- 有人島：弓削島・佐島
- 人口：3,117人(うち外28)  
(弓削2,657、佐島460)
- 世帯数：1,882世帯(うち外25)  
(弓削1,626、佐島256)
- 主な産業：造船関連事業従事  
漁業(海苔養殖等)

## ■魚島地区(旧魚島村)

- 有人島：魚島・高井神島
- 人口：159人(うち外1)  
(魚島146、高井神13)
- 世帯数：魚島106世帯(うち外1)  
(魚島94、高井神島12)
- 主な産業：漁業(定置網等)

出典：国土地理院



上島町は、離島であることから、必ず船舶を利用しないと町外に出ることができませんが、町外を結ぶ航路が数多く存在し、近隣の都市(尾道・福山等)や空港・駅等へのアクセスにも便利です。

**県道岩城弓削線（ゆめしま海道）**  
 弓削島～佐島～生名島～岩城島  
 L=6.1km ※H33年度全線開通

■人のみの航路

- 今治～岩城島～佐島～弓削島～生名島～因島
- 岩城島～因島
- 生名島～因島～三原
- 魚島～高井神島～豊島～弓削島～因島

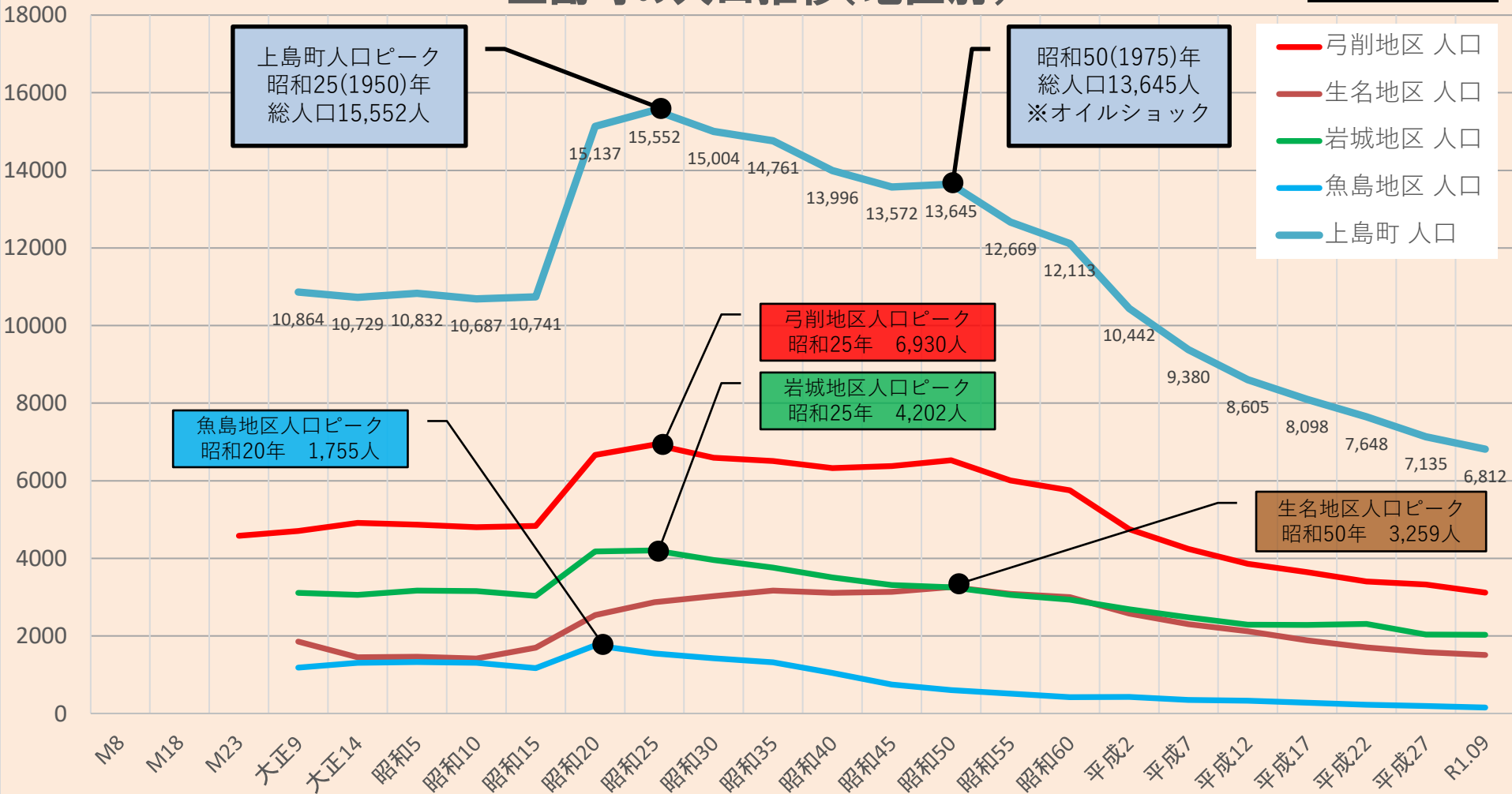
■カーフェリー航路

- 弓削島～因島
- 岩城島～生口島
- 岩城島～因島
- 生名島～因島

# 上島町の現状

## 上島町の人口推移(地区別)

国勢調査より



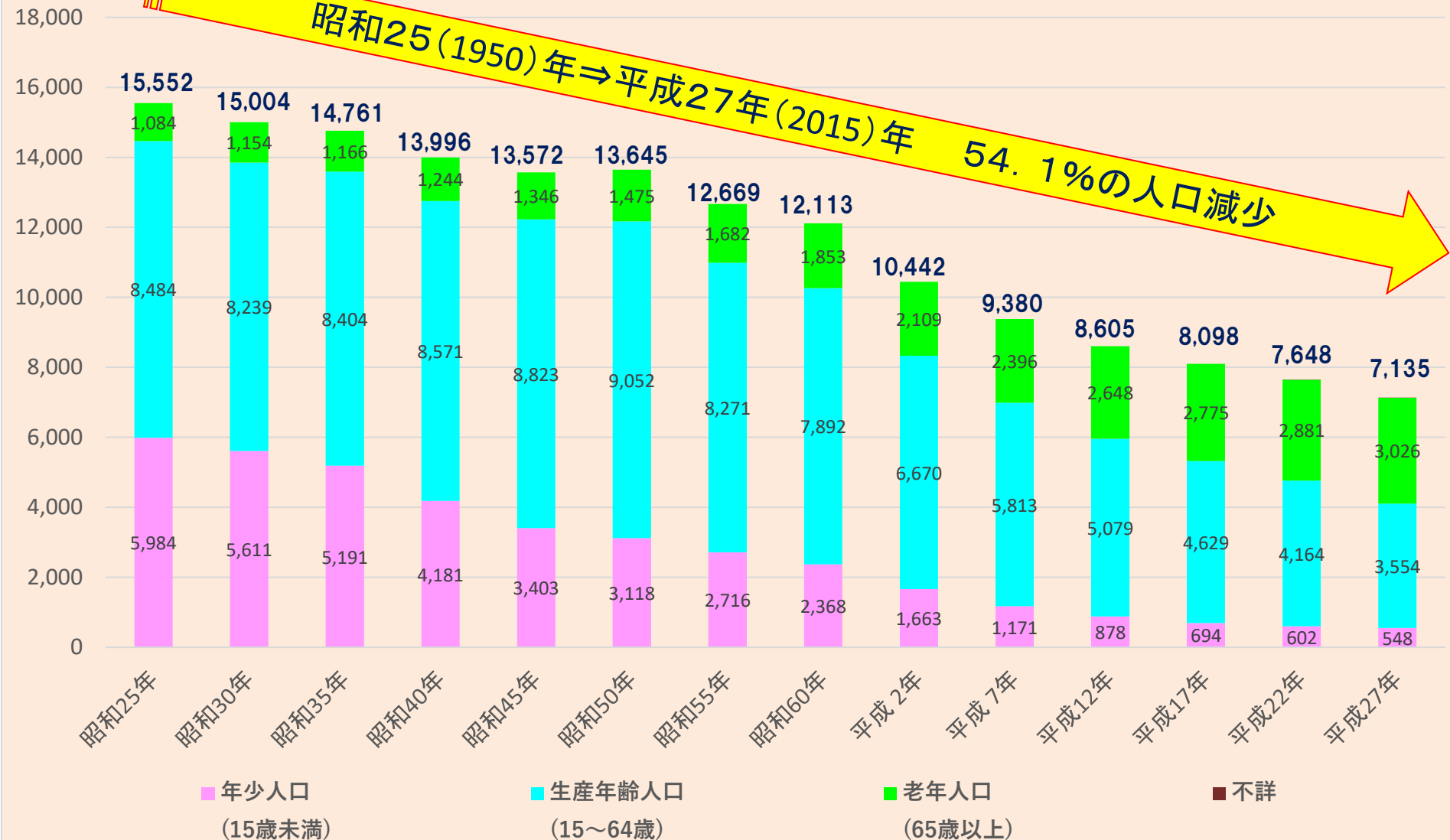
上島町は、戦後の昭和25年の総人口15,552人をピークに、日本経済の発展と共に、高校卒業後に都会へ進学・就職するという人口流出が進んだ。昭和50年頃のオイルショック頃に、一時人口増加がみられたが、都会への人口流出に併せて、少子・高齢化も進み、人口減少に歯止めがかからない状況が続いている。

■昭和25(1950)年：15,552人 ■令和元(2019)年：6,812人 ※約70年でピーク時の43.8%まで減少

## 上島町の人口推移（人口構造）

## 上島町の年齢別人口

国勢調査より



人口構造においても、戦後のバランスの取れた人口構造が崩れ始め、完全な少子・高齢社会となっている。



# 上島町の人口ピラミッド

昭和25年(1950)



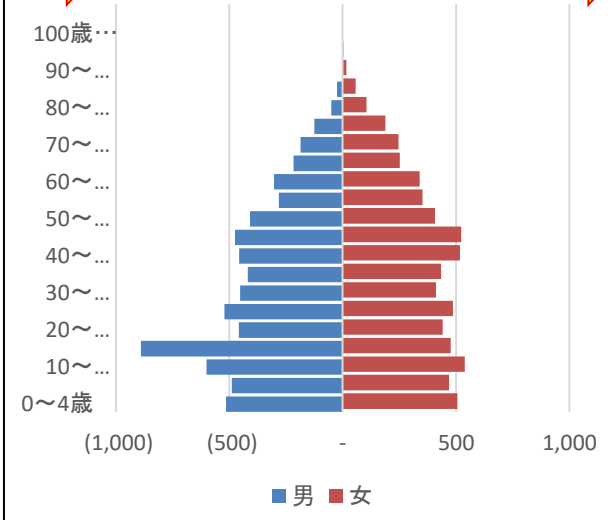
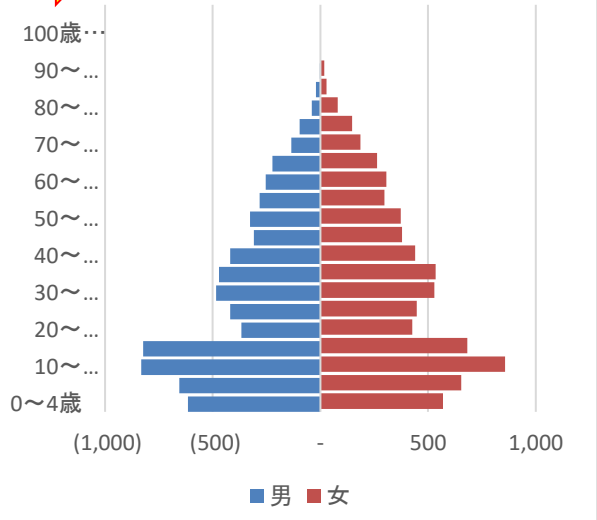
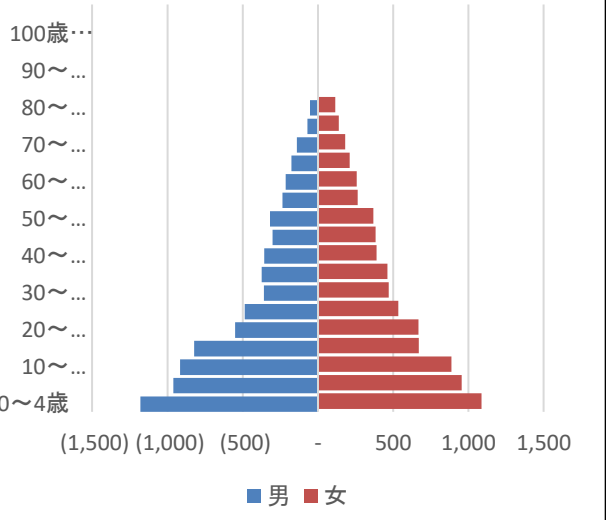
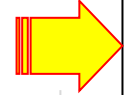
15年後

昭和40年(1965)



10年後

昭和50年(1975)



昭和60年(1985)



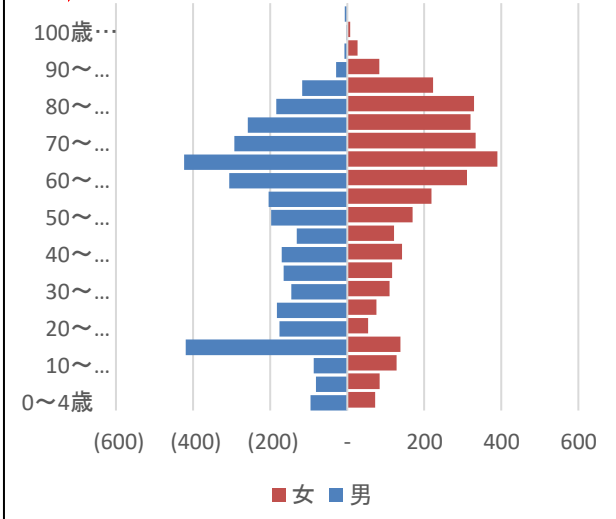
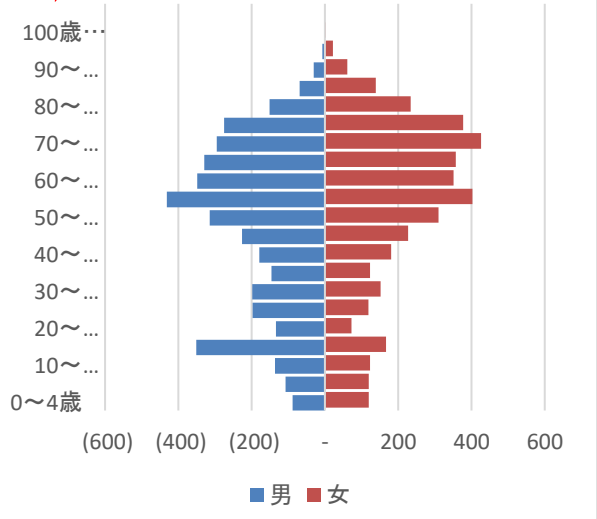
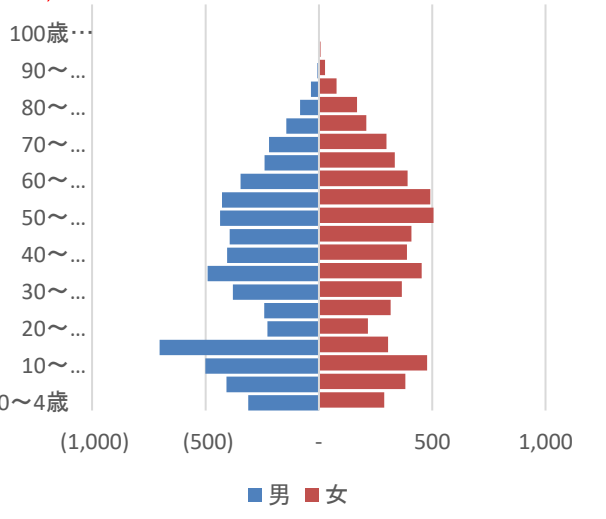
20年後

平成17年(2005)



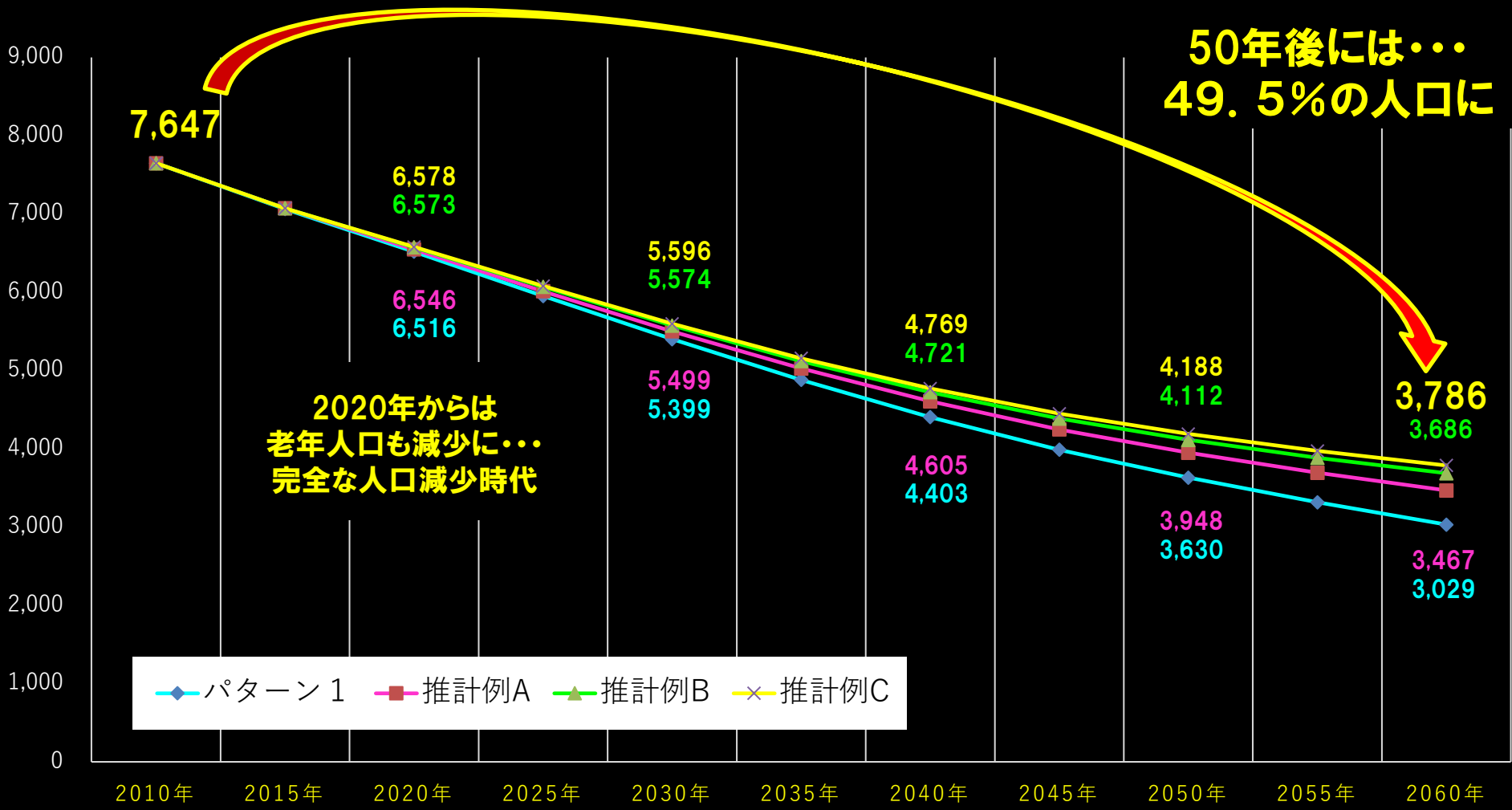
10年後

平成27年(2015)



綺麗な三角形型の人口ピラミッドが、徐々に少子高齢化による“逆三角形”に変化し、人口構造が崩れてきている。

# 上島町の人口推計(2010 - 2060)



2020年からは  
老年人口も減少に・・・  
完全な人口減少時代

50年後には・・・  
49.5%の人口に

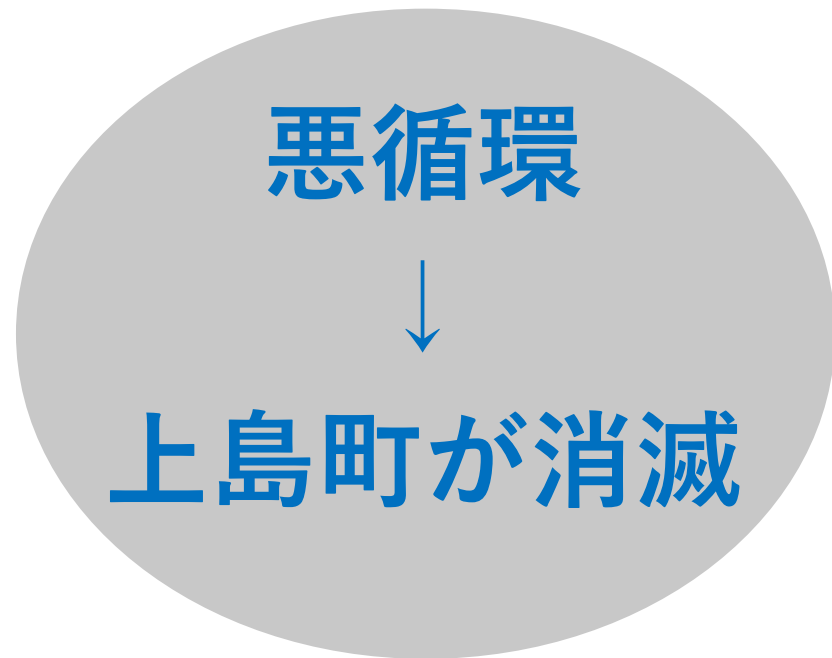
平成27年度に策定した上島町人口ビジョンによる今後の人口推計は、2010年から2060年の今後50年間で、現人口から約50%も人口が減少することが推計されている。

人口最大であった昭和25(1950)年の15,552人から、110年後の2060年には、最大値で24.4%の3,786人になることが予測されており、人口構造も年少人口・生産年齢人口が少なくなり、超高齢化社会になることが予測される。

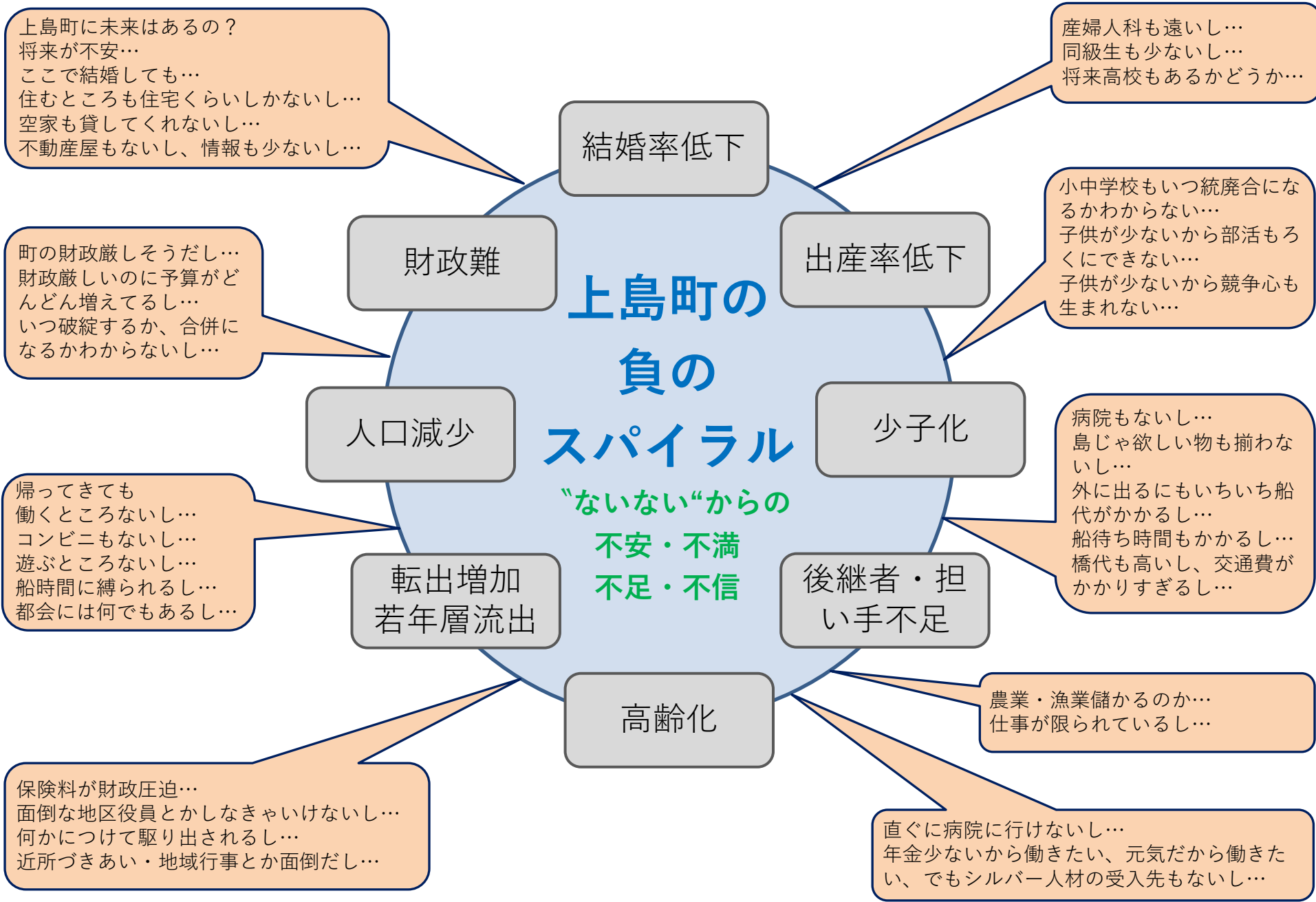


# 人口減少に伴う上島町の課題

- 結婚率低下  
⇒将来への不安
- 出産率低下  
⇒将来の子育てへの不安
- 少子化  
⇒小中学校、弓削高校の存続危機
- 後継者・担い手不足  
⇒農水産・商工・造船業等の衰退
- 高齢化  
⇒福祉費の増加による財政圧迫
- 転出者の増加・若年層の流出  
⇒税収入の減
- 人口減少  
⇒集落・地区・町の維持存続困難
- 財政難  
⇒公共サービスの削減・廃止  
～近隣市町村への合併



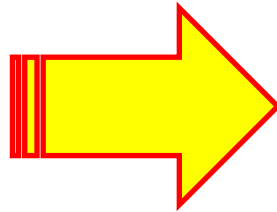
# 上島町の課題（いまや日本全国の課題）





# 上島町の課題解決に向けた取り組み 12

- 結婚率低下  
⇒ 将来への不安
- 出産率低下  
⇒ 将来の子育てへの不安
- 少子化  
⇒ 小中学校、弓削高校の存続危機
- 後継者・担い手不足  
⇒ 農水産・商工・造船業等の衰退
- 高齢化  
⇒ 福祉費の増加による財政圧迫
- 転出者の増加・若年層の流出  
⇒ 税収入の減
- 人口減少  
⇒ 集落・地区・町の維持存続困難
- 財政難  
⇒ 公共サービスの削減・廃止  
～ 近隣市町村への合併



- 結婚率低下  
⇒ 将来への不安の払拭
- 出産率低下  
⇒ 将来の子育てへの不安の払拭
- 少子化  
⇒ 上島町の教育の充実
- 後継者・担い手不足  
⇒ 後継者・担い手を作り・育てる
- 高齢化  
⇒ 健康増進、居場所づくり
- 転出者の増加・若年層の流出  
⇒ 町に住む・残る・帰る魅力づくり
- 人口減少  
⇒ 移住定住者の受入・受入態勢構築
- 財政難  
⇒ 公共サービスの見直し  
唯一無二のまちづくりによる存続

**悪循環** ⇒ 上島町が消滅

**好循環** ⇒ 上島町をつなぐ

# 上島町の将来像

- 結婚率低下
  - ⇒将来への不安の払拭
- 出産率低下
  - ⇒将来の子育てへの不安の払拭
- 少子化
  - ⇒上島町の教育の充実
- 後継者・担い手不足
  - ⇒後継者・担い手を作り・育てる
- 高齢化
  - ⇒健康増進、居場所づくり
- 転出者の増加・若年層の流出
  - ⇒町に住む・残る・帰る魅力づくり
- 人口減少
  - ⇒移住定住者の受入・受入態勢構築
- 財政難
  - ⇒公共サービスの見直し
  - 唯一無二のまちづくりによる存続

## 上島町に求めるもの（町内者）

- ◇未来がみえる暮らしができる
- ◇いい住居がある
- ◇生きがいのある仕事がある
- ◇充実した教育環境がある
- ◇住みやすい生活環境がある
- ◇安心できる福祉医療環境がある
- ◇島内循環型社会がある
- ◇公平公正の見える行政がある

## 上島町に求めるもの（町外者）

- ◆未来がみえる町である
- ◆住居・仕事がある
- ◆挑戦への支援がある
- ◆開かれた地域環境がある
- ◆話合い、交わり、集まる環境がある
- ◆変わらない自然環境がある
- ◆魅力ある人がいる

好循環 ⇒ 上島町をつなぐ



# 上島町の課題解決への具体的取組み

- |  |   |  |
|--|---|--|
| ①結婚率低下<br>⇒将来への不安の払拭                   | ⇒ | ①雇用の安定（起業等への支援）<br>①住居の確保（住居確保支援）                                  |
| ②出産率低下<br>⇒将来の子育てへの不安の払拭               | ⇒ | ②産婦人科・小児科等への通院支援<br>②保育所の等の充実（延長保育、保育料減免等）                         |
| ③少子化<br>⇒上島町の教育の充実                     | ⇒ | ③小中学校教育の充実<br>③弓削高等学校の存続支援   |
| ④後継者・担い手不足<br>⇒後継者・担い手を作り・育てる          | ⇒ | ④一次産業の振興支援・担い手育成<br>④造船振興  |
| ⑤高齢化<br>⇒健康増進、居場所づくり                   | ⇒ | ⑤健康増進施策の充実<br>⑤働き場所、活躍場所の創造（歴史文化継承）                                |
| ⑥転出者の増加・若年層の流出<br>⇒町に住む・残る・帰る魅力づくり     | ⇒ | ⑥町の魅力創出・魅力PR、町のファンづくり<br>⑥町へ帰る・来る理由づくり                             |
| ⑦人口減少<br>⇒移住定住者の受入・受入態勢構築              | ⇒ | ⑦移住定住の受入態勢・住民の意識づくり<br>⑦企業誘致等のPR（就職先の選択肢の増加）                       |
| ⑧財政難<br>⇒公共サービスの見直し<br>唯一無二のまちづくりによる存続 | ⇒ | ⑧職員数・施設・事業等の見直し<br>⑧上島架橋を活かしたコンパクトなまちづくり<br>⑧町の将来を見据えた的確な目標設定・計画策定 |

好循環 ⇒ 上島町をつなぐ

総合計画

町の未来像

世界に誇れる  
品格あるふるさと

～上島流の豊かさ・  
幸福のある暮らし～

まちづくりの理念

島人による

上島ならではのまちづくり

～住民自らによる、産業・歴史・文化・自然を  
活かしたまちづくり～

★重点プロジェクト★

- ①基幹産業を育て雇用の創出に取り組む
- ②人を呼び込み新しい人の流れを作る
- ③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ④元気島でいつまでも暮らせる

1. 交流の輪を広げる島人【地域活性分野】

さまざまな分野における町内外の交流活動を活発に展開して、交流人口の拡大を図るとともに、観光による交流の環境と、移住・定住につながるための環境の整備を進めます。

総合戦略(総合計画と共有)「まち・ひと・しごと創生」との関係

基本目標①

基幹産業を育て雇用の創出に取り組む

まちの強みを伸ばし、働き続けたいと思える環境をつくる  
「しごと創生」

基本目標④

元気島でいつまでも暮らせる

誇りを持って  
住み続けたいと思える  
生活を支える  
「まち創生」

まちづくりの理念

島人による

上島ならではのまちづくり

基本目標②

人を呼び込み新しい人の流れを作る

基本目標③

若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

人口減少を食い止め、まちの活力を維持するための「ひと創生」

基本目標②人を呼び込み新しい人の流れを作る

- (1) 移住・定住の促進 . . . . . ●移住定住支援の推進
- (2) 観光振興 . . . . . ●地域資源をいかした観光施策の推進
- (3) にぎわいの創出による . . . . . ●交流事業の促進
- 交流人口の拡大 . . . . . ●スポーツイベントによる交流機会の拡充
- 自転車・ヨット等による交流





## 上島町を維持・形成できる適正な人口の確保

### 定住促進

- ◎住み続けたい、帰ってきたい環境を作る
  - ▶「仕事創出」…働きたい、働き続けたい仕事環境の整備
  - ▶「まち創出」…各種福祉施策の充実した誇りをもって住み続けたい環境づくり  
…帰ってきたい環境づくり

### 移住促進

- ◎人を呼び込み新しい人の流れを作る
  - ▶「ひと創出」
    - …移住定住支援の推進
    - …交流人口の拡大を図る
      - ⇒交流事業の推進
      - ⇒交流機会の拡充

# 上島町の具体的な取組み（定住促進条例(H27.3~R2.3)関係）

上島町への定住促進について、奨励措置及び優遇措置を講じることにより、定住人口の確保を図り、もって町の活性化及び住民福祉の向上に寄与することを目的とする。

**若者世帯賃貸住宅家賃助成**・・・町に定住の意思を持ち、年齢40歳未満で上島町の住宅を本拠地として賃貸住宅に入居する方で、住宅手当を差引いた実家賃負担額が2万円を超えた額で月額1万円を上限に最大2年間助成。

**就業・就職奨励金**・・・町に定住の意思を持ち、町内に就業又は通勤可能な町外の対象事業所等に就職する方に奨励金を支給。（新規学卒者：10万円、Uターン者で独身：10万円、Uターン者で既婚：20万円）

**結婚祝い金**・・・夫婦で町に住民登録し、町に定住の意思を持ち、夫婦共に40歳未満の方に、祝い金30万円を支給。

**出産・子育て祝い金**・・・町に定住の意思を有し居住しており、新生児等を養育する方に祝い金を支給。  
【出産】第1子：3万円、第2子：10万円、第3子以降：30万円  
【子育て ※第3子以降】小学校入学：30万円、中学校入学：40万円、高校等入学：50万円

**移住ウェルカムプレゼント**・・・Uターン者等で過去3年間町に移住したことが方に、町の四季の特産品を1年間に渡り複数回に分けて支給。

※魚島・高井神地区に定住される方は、奨励措置金額が2倍！

# 上島町の具体的な取組み（その他定住促進等関係）

**新規出店者店舗改修補助金**・・・空き店舗等(3か月以上未使用)を利用して、店舗として新規出店しようとする者に対して、建物の改修等に要する費用の一部を補助する。

上限50万円(1/2)・・・改修等:30万円以上、備品:20万円以上の事業。(※魚島地域:2/3)

**空き家バンク制度**・・・定住対策の一環として田舎暮らしを希望する方へ空家情報を提供する。

空き家所有者にバンク登録していただき、町HPで情報提供する。

**空き家活用事業補助金**・・・空き家バンクに登録した家屋の所有者又は定住目的で賃貸・購入する方が、家屋の改修工事に要する費用の一部を補助する。

①新婚又は子育て世帯:50万円(1/2)、②それ以外の世帯:30万円(1/2)

**移住者住宅改修支援事業**・・・県外からの移住者及び地域おこし協力隊卒業者の定住支援を図るため、空家バンクに登録した家屋の改修工事に要する費用の一部を補助する。

①50万円以上の改修事業・・・2/3又は20万円(子育て世帯:40万円)

②5万円以上の家財道具等の搬出・・・2/3又は20万円

**島おこし協力隊員定住環境整備補助金**・・・現在、上島町では、人口減少、高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に誘致し、都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持及び強化を図っていくことを目的とする取組である島おこし協力隊を受け入れています。その島おこし協力隊員として参加するものに対して、将来的な定住及び起業を支援するため、その活動費の一部を補助する。

①住環境整備、②起業環境整備、③その他定住に必要な環境整備 ※各上限50万円(1/2)



## 上島町の具体的な取組み（一次産業体験・研修受入支援）

### ワーキングホリデー（1週間 ※うち農業体験3日間）

上島町に興味を持ち農漁業の勉強や島のライフスタイルを満喫したい人を支援。（60歳まで）  
1日：5,000円（農業体験3日分のみ） ※主に柑橘・野菜栽培

### お試し就業研修事業（20日間）

短期間（1年以内に20日間）、農漁業の就業を希望される方を支援。（概ね50歳まで）  
1日：5,000円（20日間の就業日） ※主に柑橘・野菜栽培、養豚、漁家

### インターン事業（2年以内）

農林漁業の就業を希望される方に対して支援するインターン事業。（概ね50歳以下の方で上島町に転入し、2年以内の研修期間を経て、7年以上継続して居住する方。）  
1ヶ月：10万円（2年以内） ※農漁家で作業実習

## 上島町の具体的な取組み（企業誘致促進条例）

**企業立地促進奨励措置**・・・指定事業者が企業の立地をしたときの支援。

①事業用の用地取得、施設建設費用の補助、②上下水道料金の支援、③固定資産税の減免

**環境保全施設等奨励措置**・・・指定事業者が、新設又は新たな事業展開に伴う増設若しくは移転による企業の立地をしたときの支援（環境保全施設等の整備費用の補助）。

**雇用促進奨励措置**・・・指定事業者が、企業の立地に伴い、本町内に住所を有する新規常用雇用従業員（純増員に限る。）を引き続き1年以上雇用したときの支援。

**情報通信関連企業奨励措置**・・・情報通信関連企業の指定事業者が企業の立地をしたときの支援（事業所・通信機器等の賃借料、回線使用料等の補助）。

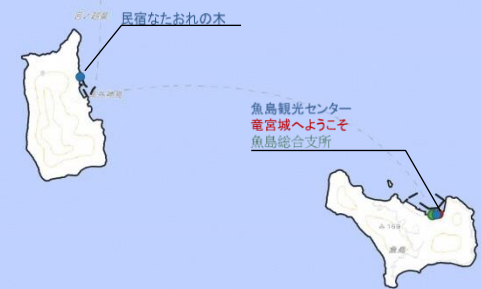
# 上島町の具体的な取組み（人を呼び込む“場・機会”の形成） 20

- ・上島町では、多様な主体の連携により関係人口・移住者を呼び込むきっかけとなる“場・機会（例：FeelKAMIJIMA等）”の形成等の地域づくりを進めている。
- ・2021年には生名島と岩城島を結ぶ岩城橋も完成し、移動利便性も向上する。



## 凡例

- : 上島町体験プログラム場所 (Feel!KAMIJIMA)
- : 宿泊場所 (ゲストハウス含む)
- : 役場・支所









・ Feel!KAMIJIMAでは30の体験プログラムを紹介。

■ Feel!KAMIJIMAで紹介されている体験プログラム（一部抜粋）

興味をもったプログラムに気軽に参加してみよう！ **上島町 体験プログラム紹介**

**SUP体験** (実施団体:Believer)

無人島目指して冒険したり、家族やペットと一緒に一枚のSUPに乗り込み写真をとったり、暮る記憶すべてが思い出になるようコーディネートいたします。コースは2つの体験コースから選択できます。

〈開催時期〉土、日、祝日(ファミリーコースは7~9月限定) (時間)9:00~12:00, 14:00~17:00 (場所)岩城島 (定員)チャレンジコース4名まで、ファミリーコース10名まで (参加料)大人3,500円、中・高校生2,500円、小学生以下2,000円 (参加条件)運転免許のない方、体調の良い方 (予約方法)2日前までに電話またはメールにて受付

お問い合わせ  
☎090-5971-4494(大谷20時以降へ対応) ■s.believerhouse@gmail.com  
■https://believer.amebaownd.jp

**龍宮城へようこそ** (実施団体:魚島漁協)

日本最古の神社「瀧島太郎」の舞台となった龍宮城。魚島の東側に位置する江ノ島には、龍宮城の入り口があると伝言されています。お龍宮城の入り口を探し、魚島の海とともにも船で探検に行きましょう！

〈開催時期〉連年(年末年始以外) (時間)1時間程度 ※出発時間はこちらをご覧ください (場所)魚島地区、江ノ島 (定員)10名 (参加料)チャーター船1台20,000円 ※予約制、今迄、尾道などへの迎えも可能(料金は要相談) (参加条件)龍宮城を借りていること (予約方法)電話にて受付、事前予約必須

お問い合わせ  
☎0897-78-0021 (魚島村漁協)

**古民家ゲストハウス 汐見の家 宿泊体験** (実施団体:古民家ゲストハウス汐見の家)

五右衛門風呂を薪で沸かしたり、夏は井戸で水汲びも、「なにもしない」が一番の贅沢です。ゆったりとした時間とちがった不便を楽しむ、あなただけの島時間を楽しんで下さい。トイレシャワーはリンス済みです。

〈開催時期〉連年 (時間)滞在期間 (場所)汐見の家(佐島) (定員)8名(最大10名) (参加料)宿泊3泊4,000円、シェアご飯(随時、お問合せ下さい)夜1,000円、朝400円 (参加条件)特になし (予約方法)電話、メール、ホームページにて受付

お問い合わせ  
☎0897-72-9800(汐見の家) ■shiomihouse@gmail.com  
■http://shiomihouse.com

**海に浮かぶカタマランで 水上生活体験** (実施団体:GOO-カヌー)

停泊中のカタマランヨットの船上で水上生活を体験できます。お昼は海の上で軽食を食べながらの昼食。夕方時間とともに変わっていく島々の風景をのんびりと堪能することができます。(食べ物などは持参ください)

〈開催時期〉連年 (時間)12:00~14:30, 17:00~19:00 (場所)佐島 (定員)10名(最低催行人数3名) (参加料)大人2,000円、小人1,500円(小学校高学年以上) (参加条件)子供は9歳以上。船の乗り降りがあるため足腰の強い方はご注意ください (予約方法)電話、メールにて受付(2週間前か)

お問い合わせ  
☎0897-75-2500(上島町役場 事務局) ■hspringett@gmail.com

**鯛めし(タコ飯) 体験** (実施者:なから 中道一雄)

瀬戸内海の上島町で獲れた新鮮な実物を見て、触って調理する。普段なかなかできない体験ができます。なかも焼めしは絶品!ぜひお召し上がりください。自分で釣った魚を調理して食べるプログラムもあります。

〈開催時期〉連年 (時間)2~3時間 (場所)生名島 (定員)10名程度 (参加料)1人2,000円~ (参加条件)特になし (予約方法)1週間前までに電話にて受付

お問い合わせ  
☎090-1013-1885(なから)

**プロパンボンベの釜で 燻製作り** (実施団体:燻製工房つらちゃん)

瀬戸内海をバックにオリーブ、肉、魚、調味料など自分オリジナルの燻製を作りましょう。どんな食材を燻製にするかは皆さんのアイデア次第!予約の際に食材を注文いただくか、当日持ち込んでいただくかどちらでもOKです。

〈開催時期〉連年(年末年始以外) (時間)9:00~15:00 (場所)生名島の自宅、出張可能 (定員)自宅1~6名 ※出張は大人数可 (参加料)1人1,500円(食材材料) (参加条件)特になし (予約方法)電話にて受付

お問い合わせ  
☎0897-76-2346(濱田)

**収穫体験& レモンポークBBQ** (実施団体:ブルーレモンファーム)

畑で収穫体験をして、お昼は採れたての野菜と島特産のレモンポークでバーベキュー!島の体験&グルメが両方楽しめるプログラムです。

〈開催時期〉連年(収穫時期以外は、別のプログラムあり) (時間)2時間程度 (場所)岩城島の畑 (定員)3~20名 (参加料)大人4,000円、小人(小学生以下)2,000円 (参加条件)特になし (予約方法)5日前までに電話または、メールにて受付

お問い合わせ  
☎090-7351-6940(古川) ■blue-lemon-farm@7.dion.ne.jp  
■http://bluelemonfarm.jimdo.com

**でっかい魚を釣ろうじゃないか!!** (実施団体:よし正)

釣り経験や事前準備など一切なくても、船釣りを手軽に体験することができます。前泊して体験が一番良い時に出発。もしくは明後まで泊りして、朝は無人島で釣り、夜は釣った魚を食べるなど、様々なプランをご用意しています。

〈開催時期〉連年 (時間)4時間(午前・午後各半日コース) (場所)岩城島、よし正漁船より(並船定員)3名まで (参加料)4名まで20,000円、以降1名追加ごとに5,000円 (参加条件)小学2年生以上、小さいお子様は乗船のみ (予約方法)電話のみ受付

お問い合わせ  
☎0897-75-2267(よし正) ■http://www.yoshimasa.jp

**レモン懐石づくり体験** (実施団体:でべそおばちゃんの家)

レモン懐石とは、普段は最後のレモンが主役となる料理で、岩城島のレモンを贅沢に使います。酸っぱいイメージとは異なり、とてもさわやかで味が良い岩城島の産直のレモンを、皮まで丸ごと使った料理を体験できます。

〈開催時期〉連年 (時間)半日 (場所)農業レストラン「でべそおばちゃんの家」(岩城島) (定員)10~40名 (参加料)1人2,000円~3,000円 ※時期によって変動あり (参加条件)4名以上 (予約方法)5日前までに電話にて受付

お問い合わせ  
☎0897-75-2843(西村)

**島の畑で野菜観察 フィールドワーク** (実施者:原田広志)

畑で野菜や生き物の観察をします。季節ごとの旬の野菜や品種による違いなど、直接観察していただきながら、野菜が栽培されているところを見ながら、野菜のあれこれ説明します。(お土産に野菜を持って帰っていただけます)

〈開催時期〉連年(冬期、繁忙期など時期による) (時間)6:00~18:00(30分程度) (場所)岩城島の畑 (定員)1~6名まで (参加料)1人1,000円 (参加条件)特になし (予約方法)前までに電話にて受付

お問い合わせ  
☎090-5064-8241(原田)

**名産柑橘類の 収穫体験** (実施者:半田杉夫他)

空気の良い静かな畑でのんびりと柑橘の収穫を体験できます。もぎたての新鮮な旬の柑橘を味わいませんか。店頭には良い品と加工品を安価に購入することもできます。

〈開催時期〉10月中旬~3月中旬 (時間)9:00~15:00 (場所)岩城島赤石地区500m以内(定員)約10名まで (参加料)1人1,000円(紅葉マシ、その他)その他500円 ※試食用 (参加条件)なし (予約方法)3日前までに電話予約

お問い合わせ  
☎0897-75-2480(半田)

**島の恵み収穫体験** (実施団体:岡野農園)

青いレモン色と呼ばれる「いんげん」でレモンやカンキョウなど有名な柑橘類と農園の人や商品「島トマト」の収穫を体験できます。

〈開催時期〉レモンなど10月~5月/トマト12月~5月 (時間)随時 (場所)岡野農園 (定員)5~6名 (参加料)大人1,500円、小人1,000円 (参加条件)汚れてもいい服、靴を持参 (予約方法)5日前までに電話予約もしくはFAXにて受付

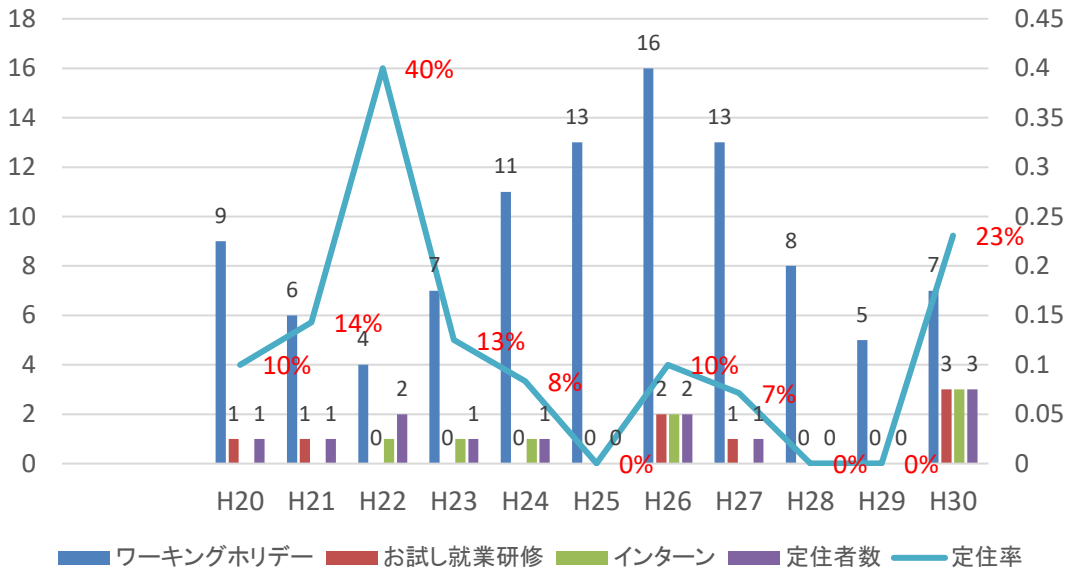
お問い合わせ  
☎0897-75-2488(岡野) ■https://okanonen-ivaigijima.jimdo.com/



平成20年から、上島町にIターンやUターンで移住し、農業・漁業の一次産業を始めたい新たな担い手候補者が、独立し、就業に至るまでの研修や生活等を支援しています。

NPO法人岩城農村塾と上島町が連携し、NPO岩城農村塾の会員が就農希望者を受け入れています。

### 上島町定住促進事業(一次産業)の実績



本事業の過去11年間の実績は、延べ115人でした。

ワーキングホリデー(1週間)・・・延べ99人

お試し就業研修(20日間)・・・延べ8人

インターン(2年以内)・・・延べ8人

そのうち定住に至った定住者数は、延べ12人で、参加いただいた方の1割程度が定住に結びついています。

瀬戸内海の島で、夢のある仕事がしたい！  
子どもを良い環境で育てたい！そして島に住んでみたい！  
そんな人たちを上島町は応援します。

## 上島町定住促進事業

### ワーキングホリデー(1週間)

- 目的 ワーキングホリデーかみじまは上島町に興味を持ち農漁業の勉強や島のライフスタイルを満喫したい人を支援する事業です。
- 対象者 60歳までの者
- 内容 期間は1週間で3日間の農業体験と3日間の島体験(ライフスタイル)1日は移動日
- 受入先 主に柑橋・野菜栽培・養豚農家です。
- 研修費等 町から5,000円/日支給(農業体験3日分のみ) ※保険は個人負担
- 宿泊先 別途斡旋いたします。(参加者負担)

### お試し就業研修事業(20日間)

- 目的 短期間、農漁業の就業を希望される方に対して支援する就業研修事業です。
- 対象者 概ね50歳までの者
- 研修内容 研修期間は20日間(1年以内)とし、農漁家で就業研修を行なう。
- 受入先 主に柑橋・野菜栽培・養豚の中核農家・漁家です。
- 研修費等 町から5,000円/日支給(20日間の就業日) ※保険は個人負担
- 宿泊先 別途斡旋いたします。(研修生負担)

### インターン事業(2年以内)

- 目的 新たな農林漁業の担い手の確保を目的とし、農林漁業の就業を希望される方に対して支援するインターン事業です。
- 対象者 おおむね50歳以下の者。ただし町長が特に認めた者も対象とする。
- 条件 上島町に転入し、農林漁業の担い手として7年以上継続して居住。
- 研修内容 研修期間は2年以内とし、農漁家での作業実習等を行なう。
- 受入先 町が指定する農漁家です。
- 研修費等 町から10万円/月支給 ※保険は個人負担
- 宿泊先 空き家・町営住宅等。(研修生負担)

### 申込・問合せ先

〒794-2492  
愛媛県越智郡上島町岩城1427番地2  
上島町役場 産業振興課 定住促進事務局  
TEL 0897-75-2500  
FAX 0897-75-2539  
メール sangyou@town.kamijima.ehime.jp



# 上島町の具体的な取組み（一次産業従事者の定住促進）

平成20年度に開始した上島町定住促進事業の利用者が多くあったため、平成22年度に上島町体験研修施設「知新館」及び「定住促進住宅」を整備しました。

「知新館」は、地域資源を活用した農林漁業の振興、地域の特性を活かし活力ある島づくりを目指す体験研修施設で、宿泊室・研修室・調理室等を備え、農林漁業の従事に向けた研修等に利用したり、移住に向けた短期間の島暮らしにも利用されています。

「定住促進住宅」は、新たな農林漁業の担い手となるU・Iターン者の確保を図ることにより、地場産業の活性化及び定住者の増加を目指すことを目的に整備しました。

（3DK:4戸）





# 上島町の観光状況

上島町では、近年のサイクリングブームにより、サイクリストの聖地として売り出す「瀬戸内しまなみ海道」人気にあやかり、上島架橋「ゆめしま海道」へのサイクリストが数多く訪れています。

また、岩城島と弓削島に「海の駅」を設置し、平成29年度にはゆげ海の駅舎「ふらっと」を開設するなど、多くのヨットマンも訪れています。

ただ、なかなか町内でのお客さんの消費が進んでいないのが現状であり、町に滞在していただく取り組み「滞在型観光」に力を入れているところです。

近年の観光客数 と消費額	県外観光 客計	県外観光客							県内	消費額
		関東	近畿	中国	九州	四国3県	外国	その他		
平成22年度	92,364	1,589	35,644	51,001	602	2,421	26	1,081	52,553	263,043
平成23年度	113,225	2,103	45,678	58,495	751	3,620	32	2,546	76,641	341,139
平成24年度	126,416	2,258	52,485	62,978	856	4,756	41	3,042	105,561	372,353
平成25年度	127,805	1,894	56,975	60,758	745	4,572	38	2,823	99,569	375,092
平成26年度	124,877	1,753	54,423	60,755	735	4,553	35	2,623	91,752	359,141
平成27年度	129,637	1,813	55,214	63,478	867	5,486	38	2,741	93,809	382,995
平成28年度	130,603	1,832	54,753	64,621	849	5,823	36	2,689	87,107	379,475
平成29年度	132,944	1,896	55,177	66,212	870	5,910	110	2,769	87,411	408,838
平成30年度	114,763	1,657	47,569	57,618	744	4,876	52	2,247	64,041	374,765

※平成30年度は西日本豪雨災害の影響で観光客数が減少

**基盤整備**  
体験プログラム  
民泊の確立

**情報発信**  
TV・雑誌等掲載  
旅行業界営業

**サイクリング**  
サイクルフリー  
サイクリング大会

**その他**  
桜まつり・マラ  
ソン大会等の  
イベント実施

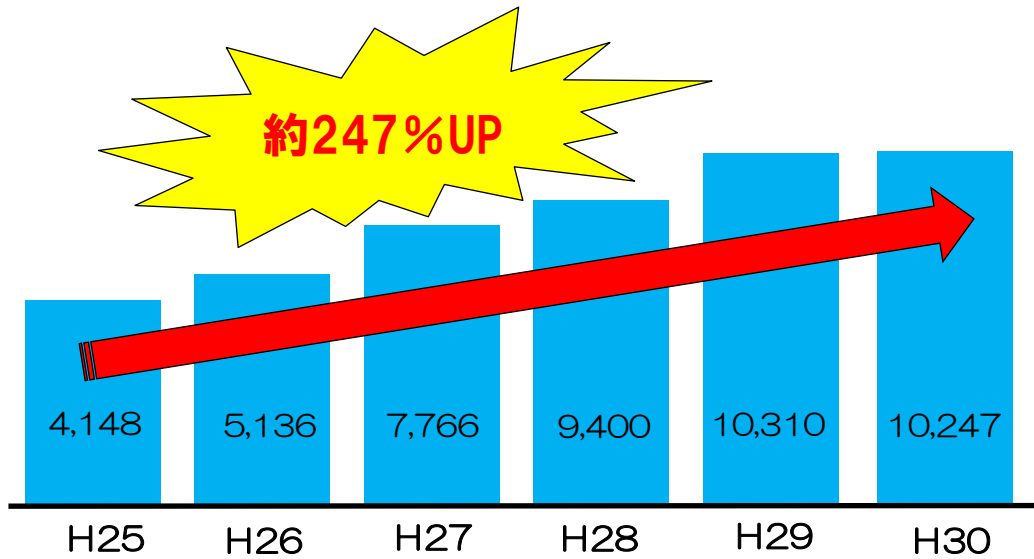






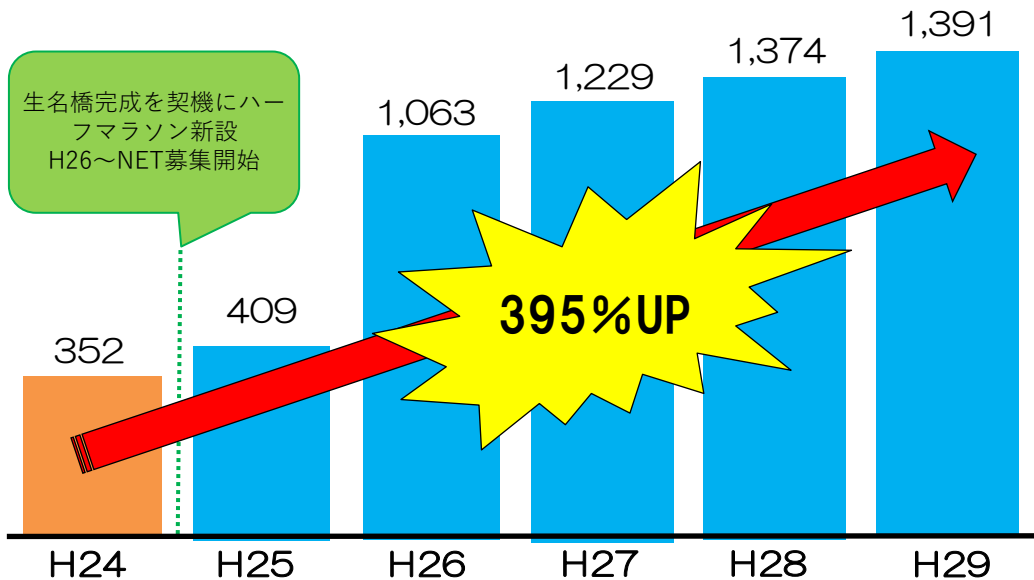
# 上島町の観光状況（サイクリスト・マラソン大会）

## ■サイクルフリー客数(人)



※サイクルフリーとは、町外在住者がサイクリングを目的に上島町を訪れる際、船舶の自転車料金を無料にする事業。

## ■ゆめしま海道いきなマラソン大会参加者数(人)



# 上島町の移住の動き（1ターン人材）<sup>28</sup>

近年、町の取組みもありますが、島おこし協力隊事業をはじめ、都会人の田舎志向、瀬戸内しまなみ海道のサイクリングブームによるゆめしま海道へのサイクリストの来町、海の駅の開設によるヨットマンの寄港等の時代の流れにより、上島町に興味を持っていただいた方が、上島町を訪れ、上島町を気に入ってくださり、そのまま上島町に移住・定住する人が増えてきています。

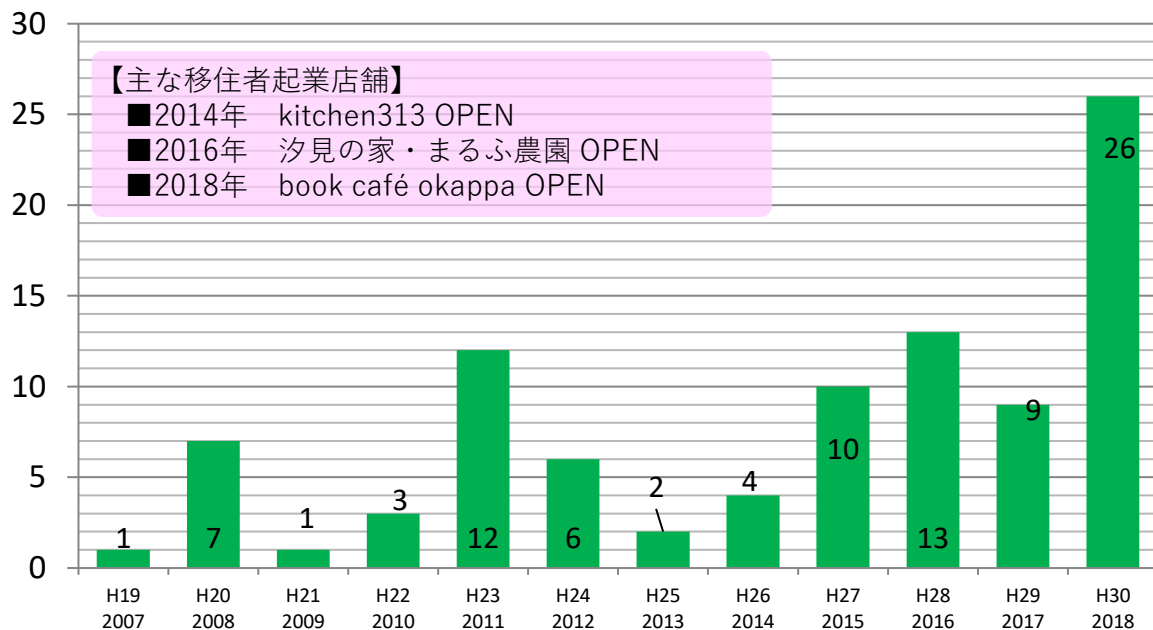
その移住定住した方々にお話を聞いていると、やはりずっと島に住んでいる島民では、気づかない、見つけられない、感じられない“島の魅力”があるようです。

この方々が、ゲストハウス・カフェ等を起業し、上島町に新たな“風”を吹き込んでおり、これをきっかけに、また新たな島へのファンが増えつつあります。

この一つの好循環が続いていくように、行政のみならず、島民をあげて応援していく必要があると思います。

上島町への移住者は、合併してから平成26年度までは横ばい傾向でしたが、平成27年度に10人と大きく増加しています。その要因として、定住促進事業の効果があり定住したケースや平成27年3月からの定住促進条例の活用等による増加です。また、過去にヨットで『ゆげ海の駅』を利用して、上島町に住みたいと思い移住されたニュージーランド出身者もいます。

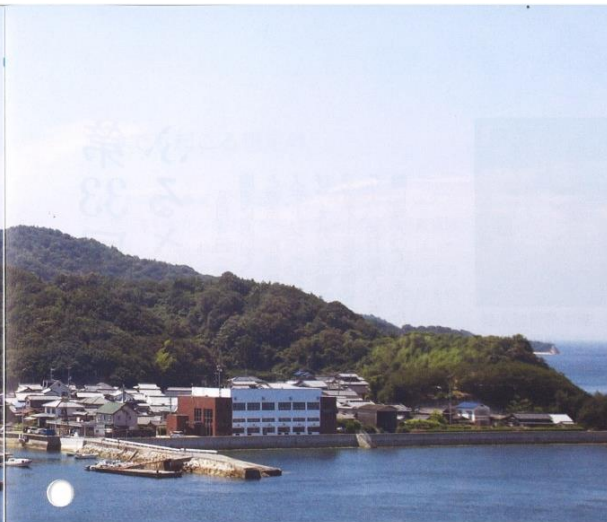
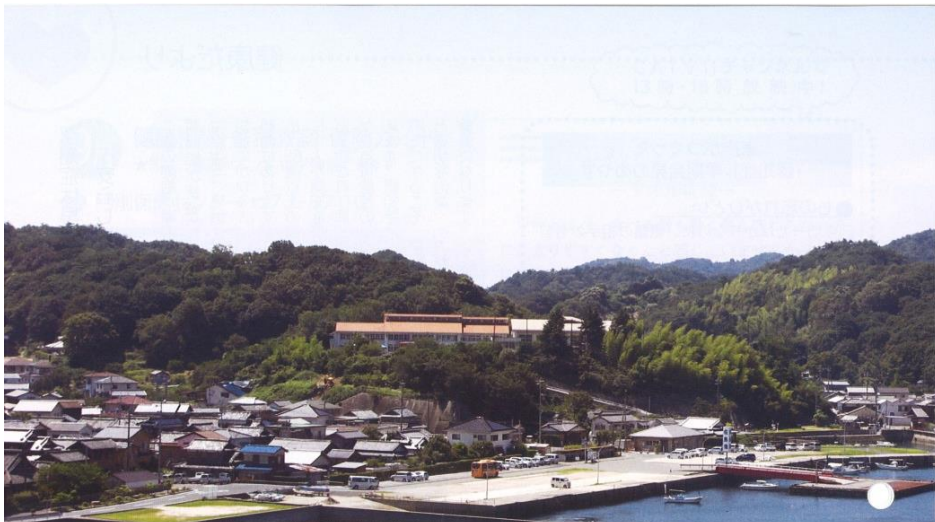
## 上島町への県外からの移住者数





# 佐島暮らし

ここ数年、1タウンなどで佐島に住み始めた方々がおられます。島の景色や人情に魅力を感じたり、仕事の都合など定住の理由は様々ですが、共通しているのは、これまでになかった業態を起業していること。今や新しい風を吹き込み、都市と地方の橋渡しになりつつあります。今月はそのうちの四組の方々をご紹介します。



島から島へ 通勤農家

## まるふ農園

左から古川さん、藤巻さん

### 自然農法で人も土も元気に

まるふ農園では、平成24年に縁あって移住した古川さん、藤巻さん夫婦が自然農法による野菜の宅配便、農家ご飯を提供する食堂、農家民宿を営んでいます。来町時に農家を目指していたわけではなく、家庭菜園をきっかけに食べ物のこと、種のこと、自然のこと、それを取り巻く社会環境を考えるようになり、弓削島に住み佐島の畑を借りて就農に至りました。少人数の家族と毎月のお付き合いを大事にして、物事にきちんと向き合える生き方、働き方は効率を追求する現代にあって、古くて新しい農業の手法かもしれません。



手つかずの遊休農地が自然農法で再生



居心地の良い島でくつろぎの空間

## book cafe okappa

左から武田さん、鈴木さん

### くつろぎのブック・カフェ 間もなく

東京で見知らぬ2人を引き合わせたのは、誰だろう「汐の家」のオーナー、西村さん。暮らしにこだわる2人が瀬戸内の島の居心地の良さに共感し、やがて意気投合して佐島に移住することを決意するのに、さほど時間はかからなかったそうです。そして昨年春に二人のおかっぱちゃんの島暮らしが始まりました。カフェの开业を目標にアルバイトを掛けもちし、旧保育所を自力で改修作業を続ける日々が続いています。彼女たちならではのセンスが光るカフェのオープンが9月を予定とのこと。



ブックカフェへと生まれかわる



佐島を拠点に備長炭の炭焼き集団

## 瀬戸内備長炭生産組合

左から岩本さん、馬木さん、藤田さん、白石さん

### 第四の産地を目指して

備長炭の材料となるウバメガシが豊富な瀬戸内。ここに目をつけた組合長の馬木さんがゆかりの地、佐島で起業を決め、以前からの仲間を誘い昨年6月に組合が誕生しました。藤田さんが三大産地の一つ、高知で製炭業のノウハウを学ぶ間、馬木さんが炭焼きや伐採林の用地の確保に奔走し、みんなで作業場の造成、建築、窯づくりを協力して行い、今年6月に火入れに漕ぎ着けました。窯の個性は十窯十色。窯の特徴を見極め、瀬戸内のウバメガシにあった焼成を探りながら、品質の向上に日夜励んでいます。新たに島の特産品の一つになるのも間近なことでしょう。



温度、タイミングを見極めて、少しずつ窯出し



今も息づく懐かしさ 一時を超えて旅人を招く

## 古民家ゲストハウス「汐見の家」

左から工藤さん(管理人)、西村さん(オーナー/東京在住)、富田さん(管理人)

### 古民家で伝える島の魅力

リノベーション(大規模改修)によりゲストハウスに生まれ変わった古民家に、西村さんの母方の旧姓をそのまま屋号に用い「汐見の家」が開業したのは2年前。島ならではの季節に応じた暮らしと人付き合いは都会では望むべくもない豊かさ、魅力があるとのこと。それは連泊やリピートの利用者数でもわかりますが、さらに宿泊者のうち定住を決意した方も数名おられるほどです。島暮らしの良さは私たちにも、まだ再発見の余地があるのかもしれない。



夕食はシェアご飯で賑やか。流し素麺に子どもたちも大はしゃぎ



# 上島町弓削島への移住者（ヨットで移住してきたダニエル一家）



記事一覧

特集

グルメ

ホテル・宿

アート

クルーズ

移住の決め手は、弓削島の美しさと住民の優しさ

各国の海を経由しながら日本入国！



船体を二つもつヨット「カマラン」

タイを出発した後、マレーシア、南シナ海、フィリピン海へ。

各国の美しい景色を眺めながら航海を続けました。

海の上で朝陽を望み、夜は星空を眺める日々は、一家にとって何にも代えがたい経験となりました。

船上生活を始めて数年が経ち、そろそろ次の定住先を見つけようという話に。

そして、次に暮らすための『理想の地』を求め、舵を切りました。

一家が目指したのは、公美さんが生まれた日本です！

2014年、ついに一家のボートは日本に入国。

その後、石垣島、奄美大島へ経て2015年に弓削島に到着しました。

島に暮らして二年目。

ダニエルさんはお得意の船の修理を。公美さんはパートで働き生計を立てています。

またトーマスさんはIT関係の仕事につきたいという夢に向かって勉強中、ジョンさんは地元の高校へ通学中。

心温かい島の人たちに見守られ、ダニエルさん一家は快適な移住生活を送っているようです。

ダニエルさん一家のような、自然に寄り添ってのんびり生活してみたい！

そう思われた皆さんに朗報です。

ダニエルさんは、ヨット生活を体験できる“ヨットステイ”を準備中なのだそう！

弓削島へ、のんびり水上生活を体験しに来てはいかがでしょうか。

瀬戸内Finderフォトライター 大橋麻輝

弓削島での仕事や、子供たちの学業は？



ダニエルさん一家が住んでいたヨットの内部

2017.2.14 愛媛県 上島町

## 『上島特集』移住者インタビューNO.1ヨットで海外から日本入国！弓削島に移住したダニエル一家【PR】



シェア



ツイート



B! はてブ



G+ シェア



お気に入り

瀬戸内海のほぼ中央、愛媛県と広島県の境に25の離島で構成された愛媛県越智郡上島町があります。ここは今までに密かに移住先として注目されている町なのです。

注目される理由とは？気になるその全貌を徹底取材！全10回に渡ってご紹介する上島町特集！今回は海外からヨットでやってきて、弓削島に移住した一家をご紹介します！

## 「船上生活がしたい！」家を売りヨットを購入



ニュージーランドから移住してきたダニエル一家

ダニエル・スプリングッドさんと妻の公美さん、二人の息子、トーマスさんとジョンさんが住んでいたのはニュージーランド。

船上生活に憧れていたダニエルさんは、家族に「ヨットを買って海の上で暮らそう！」と提案。

妻の公美さんも賛同し、長年住み慣れた家を持った後、まずはタイへ渡りました。

タイでヨットを購入し、しばらく船上生活を満喫。

「子どもたちに、広い世界を見せながら旅をしたい」と、ダニエルさん一家はタイを離れ、大海原へと出発しました！



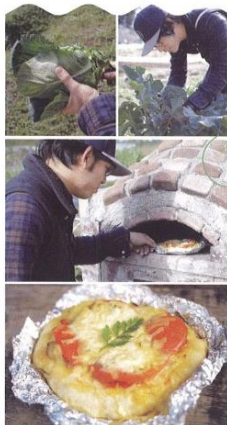
# 島おこし協力隊から岩城島（原田）・弓削島（藤巻）へ定住

## 岩城島

子どもの頃から祖母が畑仕事をしているのを見て、いずれ自分も農業をやりたいと思っていました。現在、岩城島にある祖父の畑を引き継いで、50〜60種類の野菜を栽培。野菜は生き物なので、雨が降っても毎日必ず様子を伺うようにしています。小さな種から生命が芽生えた瞬間は感慨深いものがあり、その成長を確認できる収穫作業が一番の楽しみです。プログラムでは、野菜の収穫や畑にある石釜を使ったピザ作り、畑で野菜の品種について学ぶフィールドワークを

体験してもらいます。僕は野菜を育てるようになってから、食事の際に産地や品種を気にするようになりました。みなさんにも同じように興味をもってもらいたいし、ここで野菜を収穫することが上島町のことを身近に感じるきっかけになると嬉しいですね。

滞在中は、海や柑橘を見ながらサイクリングをしたり、岩城島にある積善山で瀬戸内の景色を満喫したりと、積極的に島を巡るのがおすすめです。たくさんの方が島に来ることで様々な価値観が混ざり、物の考え方がよい方向に変わっていくと思います。新しいものを受け入れることは島の発展に大切なこと。僕もこの畑で新たな交流を図ることで、少しでも島に貢献できたら幸です。とはいえ、農業を始めてまだ3ヶ月。しばらく試行錯誤の日々が続きそうですが(笑)。



「焼いた野菜をピザにして石釜で！」



「高級品種の柑橘“せとか”も育てています！」

岩城島では野菜の畑以外に柑橘畑も管理。京都の農業学校に1年間通っていたが基本的に独学で作業を行う。石窯を使ったピザ作り体験は、畑で採れた野菜をトッピングすることもある



プログラムの詳細はP.11をご覧ください

Lifal KAMIJIMA  
原田 広志さん  
農家

ルーツとなる畑で一念発起。より多くの方と接するのことで島の発展に貢献したいです。

地元・京都での会社勤めを経て、地域おこし協力隊で母親の故郷である岩城島へ移住。2016年11月に農園をスタート

## 弓削島

東京では仕事中心の生活でしたが、次第にもっと自然の近くで、日々の暮らしを大切にしたいと思うようになりました。なるべく自分たちの暮らしは自分たちの手で創りたいと思い、まずは食べ物の自給をということで農家になりました。自然の循環のなかで作物を育てる“自然農”の考え方をベースに、農業や化学肥料を使わない、耕さない、草や虫を敵としない方法で様々な種類の野菜を育てています。まるふ農園の「ふ」には、「当たり前にするこ」を「しない」=「不」という意味が込められているんですよ。

田舎暮らしということ、のんびりしたイメージがあるかもしれませんが、実はとても忙しいんですよ！種まきや収穫、保存食を作るのも野草

や海藻を採むのも、できる時期は限られているので、さばると挽回できません。でも、街の忙しさとは違う日々の暮らしを創ることに直結した生活は楽しく、美味しく、学びと発見に満ちています。体験プログラムでは、野菜の魅力を引き出す料理体験と、自然農の考え方や作業法を座学と実践で知ってもらう自然農基礎講座を実施します。参加者の方にとって“自分が知っている野菜の調理法や育て方が必ずしもすべてではない”という、当たり前のことを別の視点で見るときっかりになると嬉しいですね。島でのおすすめの過ごし方は、何もしないこと。日が沈む様子、月あかり、雨の音、鳥や虫の声など都会では見慣れがちなことに気づけるはずですよ。



「自然農で栽培した野菜でもてなします」



「自然農で栽培した野菜でもてなします」

「野菜の美味しさを多くの人に知ってほしい」と、自宅の敷地内で土・月・月曜に「食堂まるふ農園」を営業。動物性食品を使わず自家栽培の野菜をメインにした、体にやさしい料理を提供する。夫の古川優哉さんが世話する畑では、固定種と呼ばれる監理院大根などの伝統野菜を栽培

食堂  
まるふ農園  
natural foods & drinks



プログラムの詳細はP.13をご覧ください

山梨県出身。東京で約10年間生活した後、地域おこし協力隊で弓削島へ。自宅の敷地内で「食堂まるふ農園」を営む

Lifal KAMIJIMA  
藤巻 光加さん  
食堂  
まるふ農園

当たり前にするのをしてしない。そんな、まるふ農園の「ふ」を体験してみてください。



# 上島町の定住の動き（人口流出阻止）<sup>32</sup>

上島町の高校教育機関としては、国立弓削商船高等専門学校と愛媛県立弓削高等学校があります。

弓削商船高専は、商船学科、電子機械工学科、情報工学科の専門課程があることから、全国から学生が集まり、ほとんどの学生が寮生活を送ります。

しかしその一方、弓削高等学校（普通科のみ）においては、近年の町内の少子化により、年々生徒数が減少し、愛媛県立高校再編整備計画基準における募集停止措置（20人未満が2～3年続き、その後も増える見込みがない場合）ギリギリの生徒数が続いています。※町内中学生の入学率約60%

そこで上島町として、『町から高校がなくなる』ことは、『町の衰退を加速させる』と考え、弓削高等学校を存続させるべく、平成29年度から『弓削高校魅力化プロジェクト』を始動しました。

## 町から高校がなくなる

- ⇒ 高校進学のため、中学校卒業後に島外へ
- ⇒ 子供を持つ親（生産年齢人口）の流出の可能性
- ⇒ 新たな移住・定住を妨げる要因
- ⇒ 普段から地域内で高校生の姿を見なくなる

## 町の衰退の加速

## 弓削高校魅力化プロジェクト

子どもが… **「行きたい」**  
保護者が… **「行かせたい」**  
地域が…… **「活かしたい」**  
と思う魅力的な高校を目指す！

**高校魅力化(存続) = 地域活性化**  
と捉えた取り組み



# 上島町における弓削高校魅力化プロジェクト

弓削高校魅力化プロジェクトの第一弾として、平成29年度から、空き教室を活用した弓削高校生専用の『公営塾（ゆめしま未来塾）』を開設しました。

この公営塾は、地域おこし協力隊により塾講師を募集し、現在4人の講師陣により、放課後から午後9時まで運営（基本個別指導）しています。

全校生徒の半数以上が入塾しており、1年生～3年生までの進学希望者の他にも、毎日の予習復習をする生徒が参加しています。

また、今年度からは、総合学習カリキュラム改革を行い、高校1年生から「仕事を創りに帰りたい人材の育成」をテーマにした学習をはじめ、これまで「親の面倒もみないといけなから仕方なく帰らなければいけない。」と思っていた気持ちを「上島町に帰りたい。」「仕事を創りに帰りたい。」といった前向きに島に帰ってくる人材の育成にも取り組んでいます。

## ゆめしま未来塾の目的

- 弓削高等学校の魅力化
- 進学実績の向上  
⇒入学者数を増やす
- 地元を知り、好きになる人材形成  
⇒地域を盛り上げ、将来「仕事を作り」ふるさとに戻ってくる人材育成  
(ブーメラン人材育成)



## 弓削高等学校の存続

- 魅力ある高等学校として、町内外の中学生の入学増加
- 保護者も安心して弓削高校を進められる



## 上島町の活性化・存続

- 人口流出を防ぐことができる
- 新たな移住・定住者の獲得できる
- 日常生活、地域イベント等で高校生の姿がみられる
- 新たな産業（起業）が生まれる可能性がある

**今後のプロジェクト（計画）**  
 ● 高校カリキュラム改革  
 ● 教育寮の整備





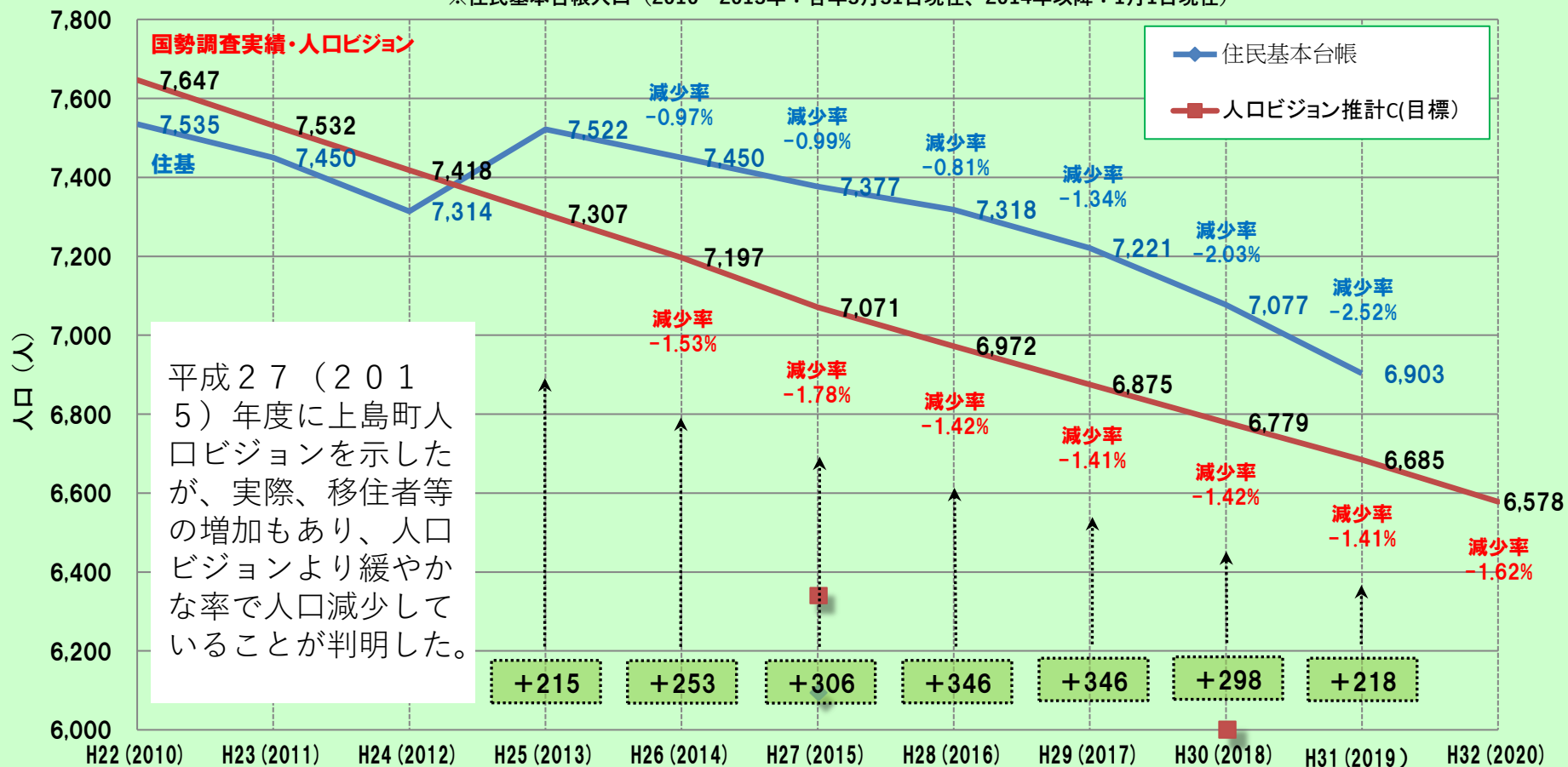
# これからの移住定住促進の取組み

近年、少しずつ、自然に移住・定住者が増えつつあり、“芽”が出始めています。

やはり、少子高齢社会の今、自然減はやむを得ないですが、新たな1ターンによる移住者及び町出身者のUターン者（社会増）を増やすことは、出生率も上がる自然増も期待され、上島町を存続していく最大の手段ではないかと思われま。

## 上島町人口推移（住民基本台帳・人口ビジョン推計の比較）

※住民基本台帳人口（2010～2013年：各年3月31日現在、2014年以降：1月1日現在）



## 町民・移住希望者の声

行政においても、町の存続・活性化を図り、生き残るために様々な取り組み（事業）を計画し、実施していますが、まだまだ、町民のニーズ、移住希望者のニーズに応えられていないのが現状です。

（まちの子供たちの声）

上島町が好きだから将来戻ってきたいけど、働くところないからなあ・・・

（まちの子供を持つ親の声）

将来子供たちと暮らしたいけど、仕事もないし、帰らせれないなあ・・・  
子供たちに苦労させたくないしなあ・・・

（まちを訪れた方々の声）

上島町が気に入ったけど、住むところも働くところないしなあ・・・  
上島町が気に入って住みたいけど、知り合いもないしなあ・・・

田舎に移住定住することの2大課題「家がない」「仕事がない」の外、いろいろな不安から、上島町に帰ってくること、上島町に住むことに二の足を踏んで、諦めてしまっている人が多くいます。

そんな人たちが安心して、『上島町に帰ってこよう！』『上島に住もう！』と思ってもらえる上島町でなくてはならないと考えています。



# 今、取り組んでいること

現在、上島町では、次期「総合戦略」の見直しを行っており、次代を担う子育て世帯や移住者の方々に集まっていただき、「上島町の未来」について語り合っています。

また、併せて、今年度から、企画情報課で移住定住促進の担当を受け持つことになったことから、移住者の方々に集まっていただいた自主研究グループを立ち上げ、「本当に移住者が求めていること」について語り合い、今後の移住定住促進の取組みを検討しています。

現在、上島町には、元気で、町の将来のことまで考えてくださる“新たな風”を吹き込んでくれている移住者が多くおられ、この方達の、生の声を活かしながら今後の「町の未来」を組み立てていきたいと考えています。



**上島町総合戦略コアチーム会議**

(令和元年7月31日～随時開催)



**かみじま未来予想図研究グループ**

(令和元年8月29日～随時開催)



## 【町の未来・計画】

- 上島町はどんな町でありたいのか。どんな未来を目指すのか。どんな人に上島町に来て欲しいかを明確（計画）にし、町民みんなで共有しておく必要があるのでは
- 移住者を増やすためには、町民や町内の多様な主体が共有した意識を持ち、連携した受け入れ体制の確立が必要ではないか

## 【移住前のPR・受入体制】

- 移住希望者が、移住定住にかかる全ての情報を収集できるHP等の情報発信が必要ではないか
- 移住者の知りたい情報と行政が持っている情報を上手く結びつけ、発信する組織・仕組みがあったら良い
- 上島町にある仕事、上島町から通える仕事など、多くの仕事の選択肢を紹介できるシステムが必要ではないか
- 観光が「移住の入り口」になるため、移住も視野に入れた観光PR・促進をしていけば良い
- 職場体験・学校体験ができるような暮らしが見える移住体験ツアーを行ったら良い
- 住居と仕事をセットで紹介・斡旋したり、移住者それぞれにあった対応ができるシステムが必要ではないか
- 地域毎に空家を再生したり、管理してみても良いのでは。その為の町からの支援をしても良い
- 何日が滞在できるようなコワーキングスペース等があれば良いと思う。
- ランドマーク的なコワーキングスペースとか移住体験宿泊施設等があれば良い
- 現在、移住者の入り口・窓口的な場所となっている既存のゲストハウス等を活用していけば良いのではないか

## 【総合窓口・地域コーディネーター】

- 行政は平等の観点から移住希望者を選べないため、NPO等民間ベースの中間支援組織が必要ではないか
- 地域（集落）レベルで、移住者と地区（人）を繋げられるような仕組みがあればいいのではないか
- 上島町は、島毎に特徴が異なるため、島毎、地域毎に中間に入って移住者と地域（人）を繋いであげることが重要だと思う。
- 人口を増やすために誰でも受け入れていい訳ではなく、島の生活に向き不向きを判断してあげる人も必要だと思う。
- 移住者を受入れるための確立されたシステム・組織づくり、また、移住者をアテンドする人が必要ではないか。

## 【移住後の支援・交流】

- 移住してきた後のプロセスも大切で、移住者同士が交流したり知人・友達を作れる場等があれば良い
- 移住した後に、何か新しく起業したいといった場合の支援があれば良い

上島町において多様な主体の連携による地域づくりを推進・発展させるために、①多様な主体が参画した「地域づくり計画」の策定、②移住希望者への「情報発信」による関係人口創出、「中間支援組織」の形成による移住・定住支援、③多様な主体が「交流する場・機会」の創出、④子供たちが帰りたい「ふるさと」の形成について取り組むべく検討を行う。

## 移住者参加型地域づくり 各段階と主な視点

## 上島町の現況・今後の展望

移住希望者

移住者・民間企業

地域住民

行政(上島町)

### ①計画段階

多様な主体が参画した「地域づくり計画」の策定

▶理念、目的、ターゲット等を明確にする

#### 【今後の展望】

移住者や地域住民など多様な主体が参画により、実効性の高い地域づくりビジョンを作成・共有・実践する



上島町の総合戦略は、令和2年度で計画期間終了となることから、現在、次期、総合戦略の見直しを行っている。

戦略の見直しに当たっては、子育て世代、移住者等の次世代を担う方10名程度からなる「コアチーム」を立ち上げ、最上位計画である上島町総合計画にある町の未来像「世界に誇れる品格あるふるさと～上島流の豊かさ・幸福のある暮らし～」とは何か？から見つめ直し、町の未来像を明確化しようと作業を進めている。

今後は、このコアチームにより導き出した基本目標のいくつかの目標毎に、さらに多様な主体・町民にも加わっていただいたワーキングチームを作り、上島町の総合戦略を策定することとしている。

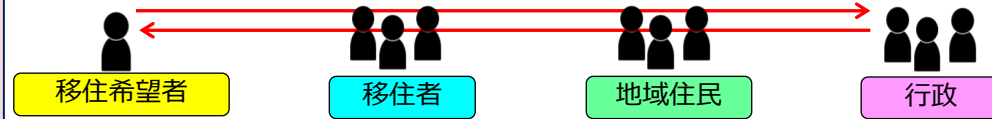
また、併せて令和2年度で上島町総合計画の前期計画期間が終了することから、後期計画の見直しに向けた作業も同時に行っていくこととしている。

## ② 立上段階

### ㊦ 移住希望者への「情報発信」による関係人口創出

▶ ニーズに即した効果的な情報発信によりファン獲得

【今後の展望】 定住促進・住居・仕事・観光等を一括した情報発信



### ㊧ 移住希望者の「滞在（交流）拠点」の形成

▶ ゲストハウス等を活用した滞在拠点確保と地域交流を支援

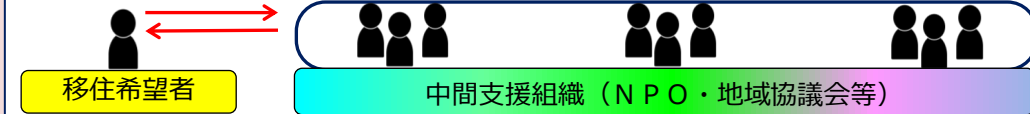
【現況】 移住希望者の入口機能に加え、地域住民の交流も支援



### ㊨ 「中間支援組織」の形成による移住・定住支援

▶ 移住希望者と地域をつなぐ組織の形成により、安定かつ継続した移住・定住支援を実施

【今後の展望】 中間支援組織の形成への検討



㊦ 関係人口の創出に当たっては、上島町に来てもらうことが大前提であり、上島町に来てもらうためには、観光が入り口であるため、数ある観光地の中から上島町を選んでもらうきっかけとなる情報発信を行う。

そんな中で、上島町では、地域住民や観光協会と協力し、令和元年度から新たな観光HP「瀬戸内かみじまトリップ」を立ち上げ、きめ細やかな情報発信を開始している。

また、それに加え、島の暮らし、住まい、仕事等、移住定住者が知りたい具体的な情報発信が必要である。

㊧ 近年の上島町への移住は、ゲストハウスや移住者が起業したお店等を訪れたことをきっかけに、上島町を気に入ってもらい移住してくる方が多くなっていることから、この流れを継続していくため、既存のゲストハウス等と協力した暮らし体験・地域交流ができるシステムを構築する必要がある。

㊨ 上島町の移住相談は、現在、役場窓口で受け付けているが、役場業務では、移住希望者の対応にも限界があるため、上島町へ既に移住されている方や地域の方が主になった「中間支援組織」といった組織による受け入れ対応が必要である。

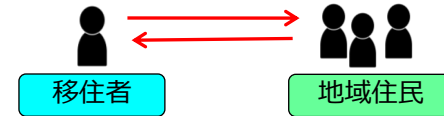


## ③実践段階

### ㊦移住者と地域住民の「関係性の構築」

▶移住者と地域住民の交流により良好な関係性を築く

### 【現況】地域行事への参加と交流



### ㊧多様な主体が「交流する場・機会」の創出

▶多様な主体が定期的に集まれる場・機会を設けることで新しい取組みが生まれ、地域活性化に繋がる

### 【今後の展望】自主研究グループなどの定期的な開催を検討

→イノベーションの創出  
→地域活性化



㊦ 移住者が地域との関係性を構築する場に「祭り」がある。移住者さんからも、「祭りに参加することで地域に馴染み、地域の人に認められるようになってきた。」という声があることから、地域の様々な行事に、移住者さんも積極的に参加し、地域も普通に受け入れる体制が必要である。

また、移住者さんのことを知らない町の人も多くいることから、移住者さんのことを知ってもらうきっかけ作りも必要である。

㊧ 移住者さん同士の口コミによる繋がりはあるが、移住者さん全体的なつながりはまだ持っていない。現在、自主研究グループの立ち上げにより、移住者さんに集まっていただくことで、移住者さん同士の交流が生まれつつあり、この集まりの中から、「上島町の未来」にかかる話や今後の地域づくりのヒントもでてきており、上島町のイノベーションの創出が期待される。

こういった会を定期的開催していくことで、移住者さん同士の繋がりを広め、そのことによる移住者さんの安心感にも繋がり、移住者さんの住みやすいまちづくりにも繋がっていくと思われる。

## ④ 継続段階

### ㊦ 移住者等のイノベーション創出を支援

▶ 移住者等による起業等の支援による継続的な仕事の確保

【今後の展望】 チャンスを活かしてもらうための起業支援



### ㊧ イノベーション創出の継承

▶ 上島町でも仕事、イノベーションを起こせるという可能性を町の子供たちに伝え、ブーメラン人材を確保する。

【今後の展望】 上島町の可能性を伝え、町の誇りを創出

→ ブーメラン人材の創出  
→ 町をつなぐ

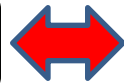


㊦ 何も無いからチャンスがある上島町で、新たに起業するチャレンジに対して支援することで、移住者等の継続的な仕事を確保する必要がある。

㊧ 高校卒業後、進学・就職等で島を離れざるを得ない子供たちに、移住者等のイノベーション創出を見て、聞いて、体験してもらい、伝えることで、島の魅力や島の可能性を感じてもらい、「何も無いから帰れない」ではなく、「何かするために帰ろう、帰りたい」と、上島町に誇りを持ってもらえる地域づくりを目指す。

## 上島町の多様な主体の連携～取組

移住希望者



移住者・民間企業

地域住民

行政(上島町)

◎人を呼び込み新しい人の流れを作る

◎住み続けたい、帰ってきたい環境を作る

「上島町に住む人」「上島町に訪れた人」など「上島町に関わった人」が幸せを感じてくれる“幸せの流れ”

好循環 ⇒ 上島町活性化・未来へつなぐ

# 上島町の多様な主体が参加する地域づくりのためのシナリオ

## ◎上島町のシナリオ

### ① 計画段階

多様な主体が参画した  
「地域づくり計画」策定

### ② 立上段階

㊦情報発信  
①滞在拠点の形成  
㊧中間支援組織の形成

### ③ 実践段階

㊦移住者・地域関係性構築  
①多様な主体が交流する場・機会の創出

### ④ 継続段階

㊦イノベーションの創出支援  
①イノベーションの創出継承

## ◎都会の人のシナリオ(旅行～移住の場合)

### ① 旅行計画

ある週末…  
どこか面白いお出かけ先ないかネット検索してみよう！  
⇒面白いイベントや体験メニューがあるし、ここ良さそう！行ってみよう！

▶旅行先に選んでもらうためのメニュー作り・情報発信

### ② 旅行(観光)

いい景色でゆったり時間が流れてていいところだなあ。  
将来、こういうところに住んでみたいな。  
どんなところかもうちょっと調べてみよう！

▶具体的な情報を収集できるポータルサイト・提供窓口

### ③ 調査

どんなまちなんだろう…  
どんな住居があるんだろう…  
どんな仕事があるんだろう…  
ちょっと相談してみたいな。  
もう一回行ってみよう！  
⇒町・住居・仕事等の紹介

▶一括した情報の収集と提供できる相談窓口

### ④ 移住体験

もうちょっと良く知りたいな。  
島ではどんな暮らしができるんだろう？  
ゲストハウスやお試し住宅に泊まってみよう。  
⇒移住体験・移住者交流

▶一時的な移住体験を受け入れ、対応できる体制

### ⑤ 移住

住居も仕事も見つかったし、この町に移住しよう！  
この町・地域のしきたりや決まりごと等はどうかだろうか？相談してみよう！  
⇒相談～地域の人への紹介

▶移住者と地域をつなぐコーディネートと地域の体制

### ⑥ 交流

知り合いも少ないし、誰かいろいろと相談とかできる友達が欲しいな。  
⇒交流の場の提供

▶移住者同士の交流の場・機会の提供

### ⑤ 起業

生活も落ち着いてきて、何か新しいことを始めてみたいなあ…  
⇒起業の支援

▶新規出店等の起業に対する支援

“新しいコト”が  
“新しいヒト”を呼び  
そのヒトが  
“新しいコト”を始め  
“新しいヒト”が集まる  
…そんな幸せの流れを  
継続していくシナリオ



## ① 立上段階…効果的な情報発信 …受け皿の整備

⇒ 移住お試し住宅・コワーキングスペース等の受け皿整備を行うにも行政のみでは限界があるため、民間企業の関わりが必要となる。

## ② 実践段階…「中間支援組織」の形成・運営

⇒ 移住者（創造的人材）・地域・住民等の多様な主体をどう巻き込むか。  
地域・住民の意識改革をどう図るか。

⇒ 中間支援組織も統括するコーディネーターから地域の協力者まで多種多様な人が関わる必要があるが、運営費を含め、どのように運営するか。

## ③ 継続支援…イノベーションの創出

⇒ 創造的人材の確保・掘り起し、イノベーション創出のために、どのような取り組みをしていけばよいか。

※例えば、住民・既移住者を問わず、町外者を含めた町の活性化のためのイノベーションの創出を競争（プレゼンテーション）型で選定し支援する。

# 最後に・・・

上島町は、毎年10月を“祭月“と呼び、毎週のように各地区で秋祭りが行われます。

私が住んでいる人口わずか463人の佐島でも、毎年のように秋祭りを行います。近年、目まぐるしい人口減少・少子高齢化の影響で、太鼓だんじりを叩く小中学生や、神輿・だんじりを担ぐ担ぎ手も減少し、秋祭りを運行するのも難しい状況に陥っており、上島町各地区からの応援により、やっとの運行を続けています。

## 上島・佐島 八幡神社例大祭 県外学生ら 担ぎ手に



だんじりを担いでのしを運いかける佐島の秋祭り

## 島の祭り 助っ人登場

上島町・前佐島の秋祭り「八幡神社例大祭」が10月あり、男壮みこしやだんじりが島内を練り歩いた。今年も、地方の祭りを支援する一般社団法人「マツリズム」(東京・大阪県代表)の事業で、県外の大学生らも参加し、担ぎ手として佳境とともに祭りを盛り上げた。

## 東京の社団法人仲介 住民と掛け声 威勢よく



マツリズムは祭りの心を強く思う。晴天に恵まれた13日、都部の若者らもつなぐ。地域活性化や文化継承に取り組んでいる佐島での事業は日本財団(東京)の「海と日本プロジェクト」の一環として実施した。過疎が進む佐島でも祭りの参加者の減少は悩みの一つ。近隣の島や備後等の力を借りて継続してきた。学生らの参加に、例大祭の祭典部長を務めた松岡周安さん(45)は「人が少ないので来てくれるのはうれしい。年配の人にも『変わっていいな』と喜んでくれる」と支援

「マツリズムは祭りの心を強く思う。晴天に恵まれた13日、都部の若者らもつなぐ。地域活性化や文化継承に取り組んでいる佐島での事業は日本財団(東京)の「海と日本プロジェクト」の一環として実施した。過疎が進む佐島でも祭りの参加者の減少は悩みの一つ。近隣の島や備後等の力を借りて継続してきた。学生らの参加に、例大祭の祭典部長を務めた松岡周安さん(45)は「人が少ないので来てくれるのはうれしい。年配の人にも『変わっていいな』と喜んでくれる」と支援

「マツリズムは祭りの心を強く思う。晴天に恵まれた13日、都部の若者らもつなぐ。地域活性化や文化継承に取り組んでいる佐島での事業は日本財団(東京)の「海と日本プロジェクト」の一環として実施した。過疎が進む佐島でも祭りの参加者の減少は悩みの一つ。近隣の島や備後等の力を借りて継続してきた。学生らの参加に、例大祭の祭典部長を務めた松岡周安さん(45)は「人が少ないので来てくれるのはうれしい。年配の人にも『変わっていいな』と喜んでくれる」と支援

「マツリズムは祭りの心を強く思う。晴天に恵まれた13日、都部の若者らもつなぐ。地域活性化や文化継承に取り組んでいる佐島での事業は日本財団(東京)の「海と日本プロジェクト」の一環として実施した。過疎が進む佐島でも祭りの参加者の減少は悩みの一つ。近隣の島や備後等の力を借りて継続してきた。学生らの参加に、例大祭の祭典部長を務めた松岡周安さん(45)は「人が少ないので来てくれるのはうれしい。年配の人にも『変わっていいな』と喜んでくれる」と支援

「マツリズムは祭りの心を強く思う。晴天に恵まれた13日、都部の若者らもつなぐ。地域活性化や文化継承に取り組んでいる佐島での事業は日本財団(東京)の「海と日本プロジェクト」の一環として実施した。過疎が進む佐島でも祭りの参加者の減少は悩みの一つ。近隣の島や備後等の力を借りて継続してきた。学生らの参加に、例大祭の祭典部長を務めた松岡周安さん(45)は「人が少ないので来てくれるのはうれしい。年配の人にも『変わっていいな』と喜んでくれる」と支援

「マツリズムは祭りの心を強く思う。晴天に恵まれた13日、都部の若者らもつなぐ。地域活性化や文化継承に取り組んでいる佐島での事業は日本財団(東京)の「海と日本プロジェクト」の一環として実施した。過疎が進む佐島でも祭りの参加者の減少は悩みの一つ。近隣の島や備後等の力を借りて継続してきた。学生らの参加に、例大祭の祭典部長を務めた松岡周安さん(45)は「人が少ないので来てくれるのはうれしい。年配の人にも『変わっていいな』と喜んでくれる」と支援

そんな中、今年、佐島にあるゲストハウス“汐見の家”の『縁』により、全国の過疎地の祭りを応援している一般社団法人マツリズムという団体と出会い、全国から7人の大学生及びマツリズムスタッフ10数名が佐島秋祭りに参加してくれることとなり、受入れのお手伝いをしました。

伝統の祭りによそ者を入れて良いものかと思っていきましたが、佐島の島民は「ええことじゃないか!」「元気があってええのお!」と“普通“に大学生達を受入れてくださり、大学生達も佐島の秋祭りを存分に楽しんでくれたようで、来年も来たいと言ってくれました。

これは、縁から生まれた交流であり、新たな“関係人口“の創出にもつながったのではないかと思います。

普段の行政の仕事だけでなく、ひとりの住民としても地域づくりに貢献できることがあるのではないかと思います。

これからもアンテナを張りながら行政マンとして、一町民として動いていきたいと思ひます。

上島町弓削総合支所屋上から望む弓削瀬戸



ご清聴ありがとうございました  
愛媛県上島町 檜垣 明宏